DC EX

銀河戦国群雄伝ライ

17

真鍋譲治

DE-5-17

発行 メディアワークス
発売 主婦の友社

9784073086208

1920979009301

ISBN4-07-308620-0

C0979 ¥930E

発行●メディアワークス　発売●主婦の友社　定価：本体930円 ※消費税が別に加算されます

DENGEKI COMICS EX

フォーチュン・クエスト①②
迎 夏生COMIC 深沢美潮STORY

エンジェルアーム①～⑦
衣谷 遊

央華封神①②
栗橋伸祐 原案友野 詳

電撃摩陀羅海賊本①
田島昭宇 原作
with MADARA PROJECT

MADARA赤LASA①～③
田島昭宇

MADARA巻①～④
田島昭宇

MADARA転生編
田島昭宇
with MADARA PROJECT

MADARA外伝
死海のギルガメシュ
花津美子
with MADARA PROJECT

幼稚園戦記まだら①～④
義見依久with MADARA PROJECT

摩陀羅RPG
MADARA PROJECT

MADARA影
高橋 明with MADARA PROJECT

聖痕のジョカ①～⑤
大塚英志原作 相川 有作画

銀河戦国群雄伝ライ①～⑰
[redacted]

緋翔伝幾千の月のかけら①～⑥
夢来鳥ねむ

魔狼王烈風伝①～⑦
沢田 翔

女神天国新女神誕生編
宮須弥

ネコた～ぼ16V①
そうま竜也

超神Z①
作・司徒劍儒
DR-MADARA PROJECT

Nocturne～夜想曲～①
栗橋伸祐

ガンドライバー①～③
ヒトウ ゴウ原作
せたのりやす作画

リスティス①
うたたねひろゆき

最終機攻兵メタルスレイダー
グローリーエイミアの面影①
☆よしみる

極道くん漫遊記①
桐嶋たける
中村うさぎ原案

JAJA姫武遊伝①
中村うさぎ原作 衣谷 遊作画

レジェンド・オブ・クリスタニア①～③
はじまりの冒険者たち
姫川 明with HIURI PRO
水野 良原案

テレビアニメ版
神秘の世界エルハザード①～⑤

魔獣水滸伝KIZNA①②
ヒトウ ゴウ原作
夏野すいか作画

太陽の少女インカちゃん①②
小野敏洋

誕生～Debut
蘭宮 涼

メルクリウスプリティ①
西野 司

ドラゴンナイト4①
[redacted]

がんばれ!プリンセスちゃん
ひぐちきみこ

もっとがんばれ!プリンセスちゃん
ひぐちきみこ

鉄(くろがね)**コミュニケイション①**
たくま朋正

流星雀士キララ☆スター
高雄右京

月極はっぴぃあばーとめんと
思い当たる

ほにゃほにゃれでぃGOGO!
ぶるまほげろー

RAI

BY JOJI MANABE

17

銀河戦国群雄伝

ライ

• ARTIST
JOJI MANABE

• EDITOR
JUN-ICHIRO SATOH
ANRI KOMATSU

• BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

• SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OKITA
HIRONORI NAGAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜擢され、五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝座士都に一番乗りを果し、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、修羅のクーデター時には、南京楼の大守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を自軍に軍師として迎え、また、皇室の娘紫紋を妻に迎えるや、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、激戦を展開、ついに金州海にて、恩師狼刃を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、まもなく全五丈を平らげる。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に使える身分でもあったが大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にし、右腕として活躍する。雷の密命を受け、暴政下の武王都に残り、麗羅の保護を依頼され、その身柄を無事雷の元に届けた。

【太助】たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でもある。この度の偽帝討伐戦においては、帝都斉士都奥深く潜り込み、師真と図って、敵謀将骸延の失脚を画策するなど身軽さを生かした活躍が光る。

【大覚屋師真】だいがくやししん

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れ、甚だ評判が悪い。だが、その知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、並みいる諸侯からの度重なる招きを全て固辞し、時を待つ。やがて、その南京楼に雷が赴任、紫紋に横恋慕した師真は、城に出入りし、次第に雷に傾倒していく。雷挙兵時には、軍師としてその才覚を余すことなく発揮、劣勢下の南京楼軍を勝利に導く。

【紫紋】しもん

敗将阿曹王禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に、悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。実の父阿曹王禅を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られ、恩賞として敵でもある雷の元に預けられる。だが、雷とはそれを乗り越え深い愛情を寄せ合う。その後も、雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

【麗羅】れいら

男勝りの五丈の王女。弾正という強大な権力を背景に我がまま放題である。雷には興味を持ち、紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうとした事もある。弾正の死後、骸羅と結び、五丈を乗っ取る。その後、国を追われ、雷の命を受けた雲海に保護され、雷の元に落ち着く。

【孟閣】もうかく

冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識と経験を基に、よく雷を助け、軍事部門の責任者として、その職業に重きをなす。

【三楽斎】さんらくさい

南京楼軍の武将。主人運が無く、自分の出世のために各赴任地を転々とする。その処世術のために孟閣らにはよく思われていないが、彼自身極めて有能な官僚であり、弁舌の才をもって雷を補佐し、外交、内政面において活躍する、能吏派軍人。

【鐘士元】しょうしげん

南京楼軍の武将。雷の師団長時代以来の宿将。勇猛果敢、常に先鋒を受け持ったが、師真の様な新参者とは反りが合わず、常に対立するが、初戦において師真の知謀を認め、その指揮下に入り、金州海の決戦に於いては顕著な活躍をする。

【姚文】ようぶん

南京楼軍の武将。鐘士元等と共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には逆らわず、よく戦い、骸羅討伐の前哨戦を勝利に導く。その後も、金州海や各地の戦いに於いて戦功を上げ、雷の五丈平定を助ける。

【項武】こうぶ

項嵩の息子で怪力無双の暴れ者。八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。父と共に雷に帰順し、

その武勇を買われ、常に先鋒を任される。多分に深謀遠慮が欠けるところもあったが、敵味方共に認める千軍万馬の強者である。

【林則嘉】りんそくか

南泉楼軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされずにいたが、城内に出入りしている間に師真に見出され、雷帥翼の人物として師真と双璧をなす。天才肌の師真に対して、地味ながらその誠実さを持って数々の献策をし、雷の地盤の発展を図る。特に金州海の決戦に於いて逸る雷を諫めたのは特筆される。だが師真の唱える「覇」には疑問を持つ。

【如晦】じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。士官をせず、しばらく田舎に於いて晴耕雨読の生活を送っていたが、右大臣西豹により推薦され、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ幕下に入る。玄偉の殺害を雷に強く勧めた。

【孟起】もうき

五丈軍の第二世代を代表する青年武将。大将軍孟闇の息子で共に雷の許で奮戦する。幼少の時から父親には黙って軍に参加し、14歳の時に初首級を挙げる。剛胆な性格は父親譲りだがその若さ故に多少向こう見ずの所があるのはご愛嬌。しかし、そこが孟闇が息子を半人前だと危惧する原因である。六紋海の戦いでは遊軍を率いて八面六臂の活躍をして父の不安を和らげる。

【装伯】そうはく

造船総監装民の甥。幼少より博学ぶりを発揮し、父親亡き後、十代で装民の養子となる。義父より多くを学び、技術者として五丈軍の要の一人となる。義父の手による巨砲を、自走砲艦として生まれ変わらせた。その大砲により帝虎級戦艦『王虎』を沈没させた事で対南天戦の流れを変えた。

【呂朱】りょしゅ

五丈軍の中堅武将。元々は骸羅帝政時代の一大守の許に仕えていたが、雷の挙兵に応じて骸羅派の大守を殺し、配下の兵と共に雷の許に馳せ参じた。その功により奮威将軍に進み、一時期、斉王都で従事をも兼任した。

【鐘才】しょうさい

郡役所の下級官吏から鎮南将軍にまで登り詰めた苦労人。骸羅を批判する上奏を行い投獄されるが、斉王都陥

落で解放され、その後、雷に仕える。六紋海の戦いでは、後方遮断の任を委かされる。

【羅候】らこう

練国国王。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。最初は南天の大国、智に従属していたが、徐々に勢力を広げ、南蛮王国王女、邑峻を嫁取り、その地盤を強固な物にする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て正宗の失脚を図る。南蛮王の死去後、その王位を継ぎ、練・南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。雷の偽帝討伐戦に於いては中立を宣言、だが、その野心に満ちた瞳は銀河中央を睨んでいる。

【姜子昌】きょうししょう

練国きっての名将。羅候の身辺にあり、いわゆる竹馬の友である。若くして、練軍の大都督に任じられ、羅候を補佐し、練国の発展に尽力する。正宗による銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込む。だが、誰よりも正宗の恐ろしさを知っており、その警戒を怠らなかった。この度の北伐では、羅候より総大将に任じられ、師真と対決する。

【蹄庖】ていほう

練の若き武将。姜子昌の右腕とも言われるのが、参軍校尉蹄庖である。知勇に秀でて、智、五丈、南蛮に開まれた羅候を助け、奮闘する。また、戦功だけではなく、南蛮や正宗の元に使者として遣わされ、首尾良く務めを果たすところなどは、彼の非凡な才能を示している。

【夏候獣】かこうじゅう

南蛮王、琥瑛罵洲に仕えていた名将。南蛮の名門夏候氏の頭領でもあり、老齢ながら任侠気溢れる豪傑。琥瑛罵洲の死去後、練国国王であった羅候への南蛮王位禅譲を支援し、奔走した。南天軍の重鎮であり、多くの将官に敬われている。

【龍緒】りゅうしょ

夏候獣と共に、琥瑛罵洲、羅候の二君に仕えた老臣。血気にはやる若き主君、羅候に意見できる貴重な存在である。五丈との戦いには、主席参謀として大本営に席を置く。実質的には、練の宰相職にある。法令、兵法いずれにも造詣が深く、北伐にも帯同はしているものの、数多い将官の中にあってはどちらかと言えば慎重派である。

【邑峻】ゆうしゅん

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、

羅候の元に輿入れする。百人に及ぶ女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修行は熱心だった。得意料理の七色餃子のてんこ盛りで宮殿内を餃子だらけにしてしまった。とにかく羅候が好きで好きでたまらない若奥様である。

【神楽】かぐら

練国武将。邑峻の遠縁の血筋で白象を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。他の南蛮人に見られるように相当に気性が激しくプライドも高い。女将を軽く見る姜子昌とは何かと対立するが彼にはほのかな恋心を抱く。今後の展開は？

【火徳星】かとくせい

南天虎牙将軍。南天軍の主戦力である中軍を率いる五将の一人である。力任せの将が多いと思われがちの南天軍の中で、火徳星の真価は、その厳つい外見とは裏腹に、剛毅でかつ冷静沈着なところにあり、姜子昌より包囲軍総大将を委かされる。

【玄偉】げんい

五丈四天王の一人で凄腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武将であったが、早くも帝国の再興に見切りを付け、弾正側に寝返り、弾正に重く用いられる。骸羅の反乱の際、華玉、鳳鳴共々、殺害されたと思われていたが、某所での生存が骸延の知るところとなる。雷の偽帝討伐戦に暗躍、部下の華玉と西羌王秦嶌の許に身を寄せる。やがて、彼を抱き込み戦局の最終段階に於いて参戦し、斉王都の戦いでは雷を出し抜き、幻術を操り偽帝骸羅を倒す。その後も一勢力を維持し、新政府の中で雷と対立する。

【華玉】かぎょく

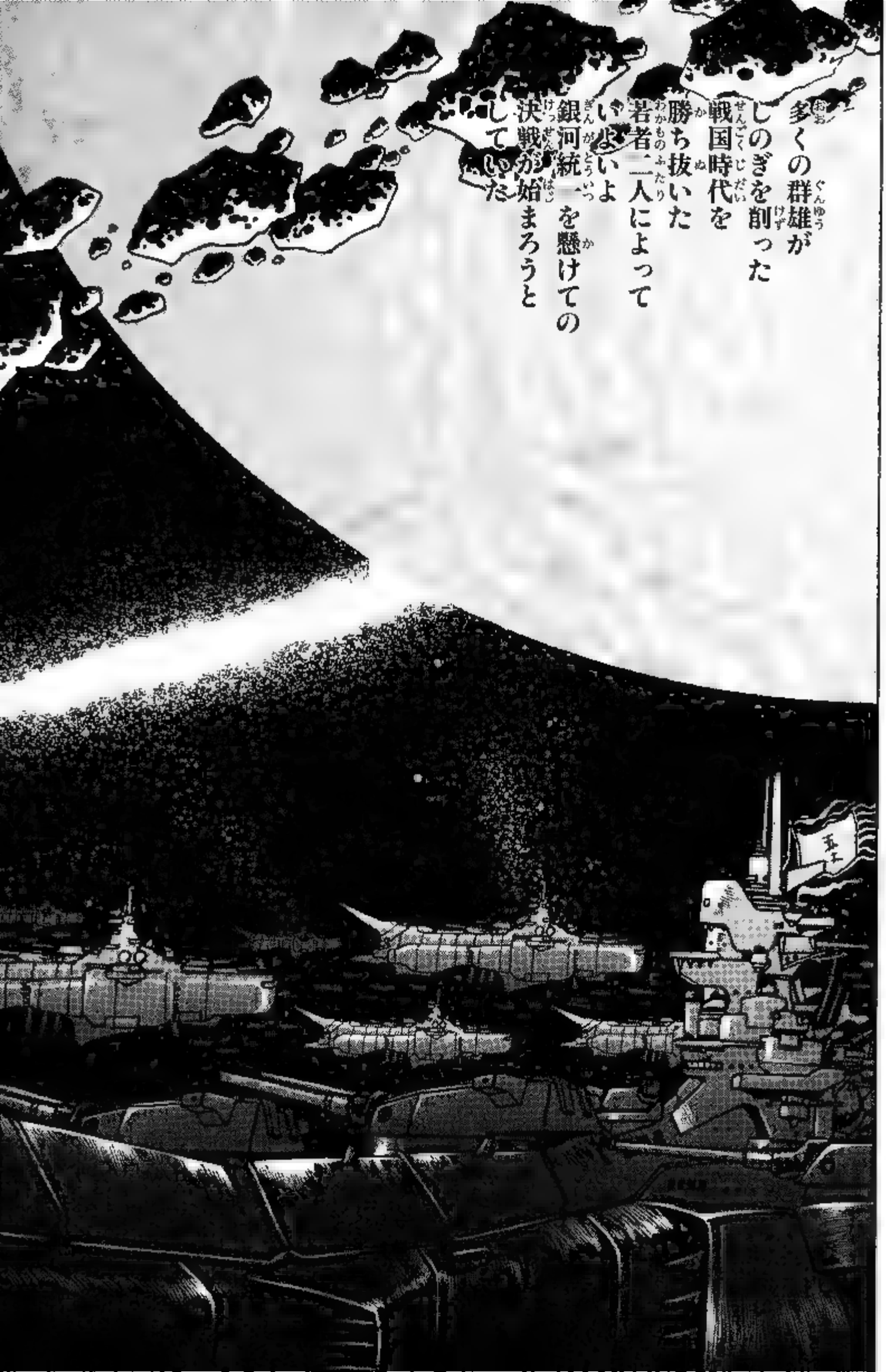
玄偉の腹心。李張道師の高弟で、その秘められた力で玄偉に適切な助言をする。弾正の死期を予測し、玄偉を天下人にするため暗躍する。骸羅の反乱の混乱時に玄偉と共に消息不明となるが、雷と骸羅の対決を前に現れ、策謀を巡らす。斉王都では師真と功を争うが、すべての所で破れる。

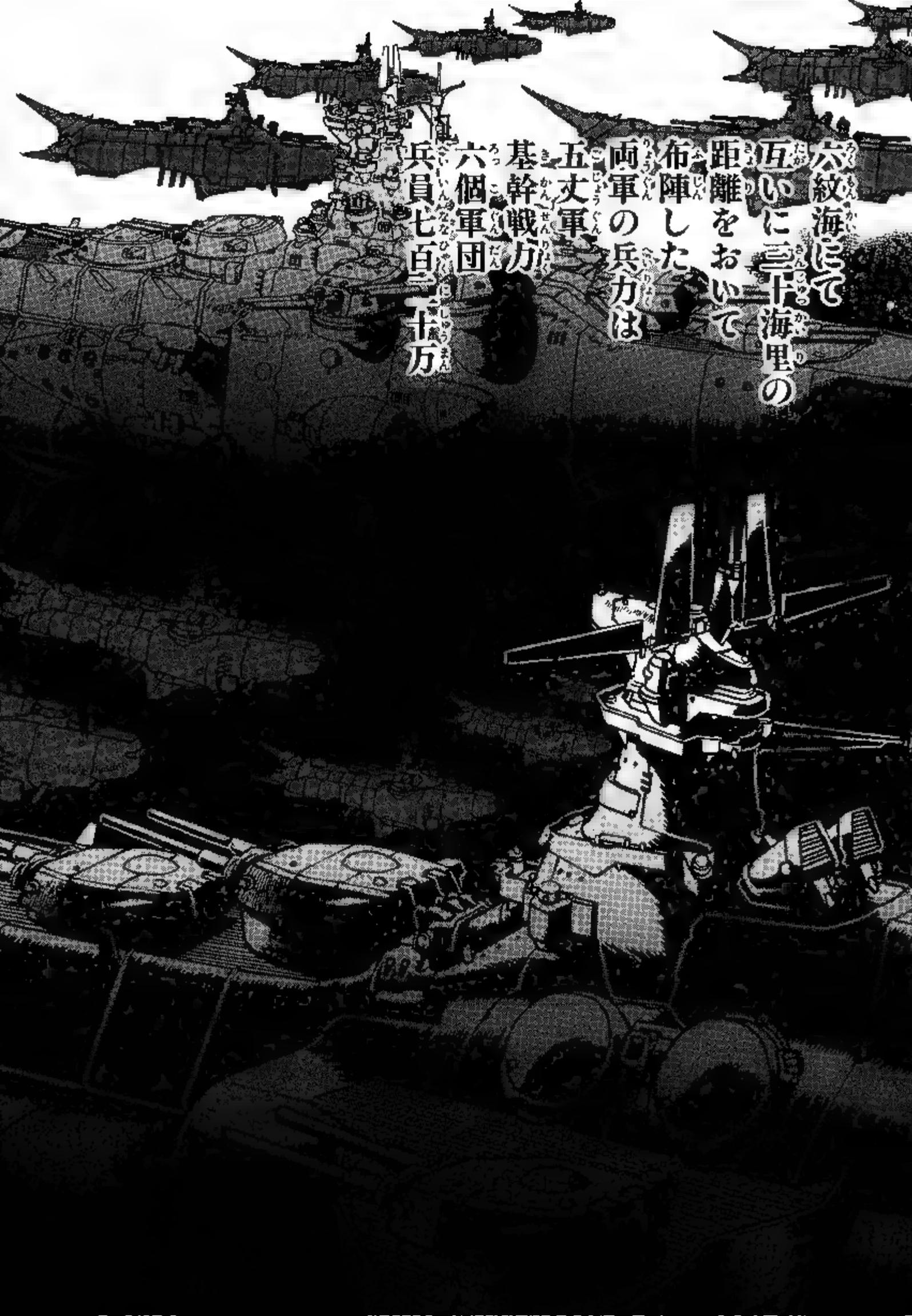
【秦宮括】しんていかつ

西羌王秦嶌の息子。西羌一の豪傑である。父親に近づいた玄偉を嫌い、かえってその怒りに触れ謹慎させられる。秦嶌が雷に倒されたのを知り、叔父秦起と共に五丈に復仇戦を挑む。迎え討った項武の激戦を繰り広げ、強者ぶりを発揮した。雷に心服し五丈とは講和を結んでいる。

六紋海…
それは
遠くから眺めると
岩礁群の奥に
光り輝く四つの
太陽が見える
美しい海である

よって起こる
宇宙気流が
三つの大江となって
周りを取り囲む
まるで牢獄のような
世界であった
たか近づいてみると
山入り口はなのの
海峡に限定され
太陽の巨大な重力に

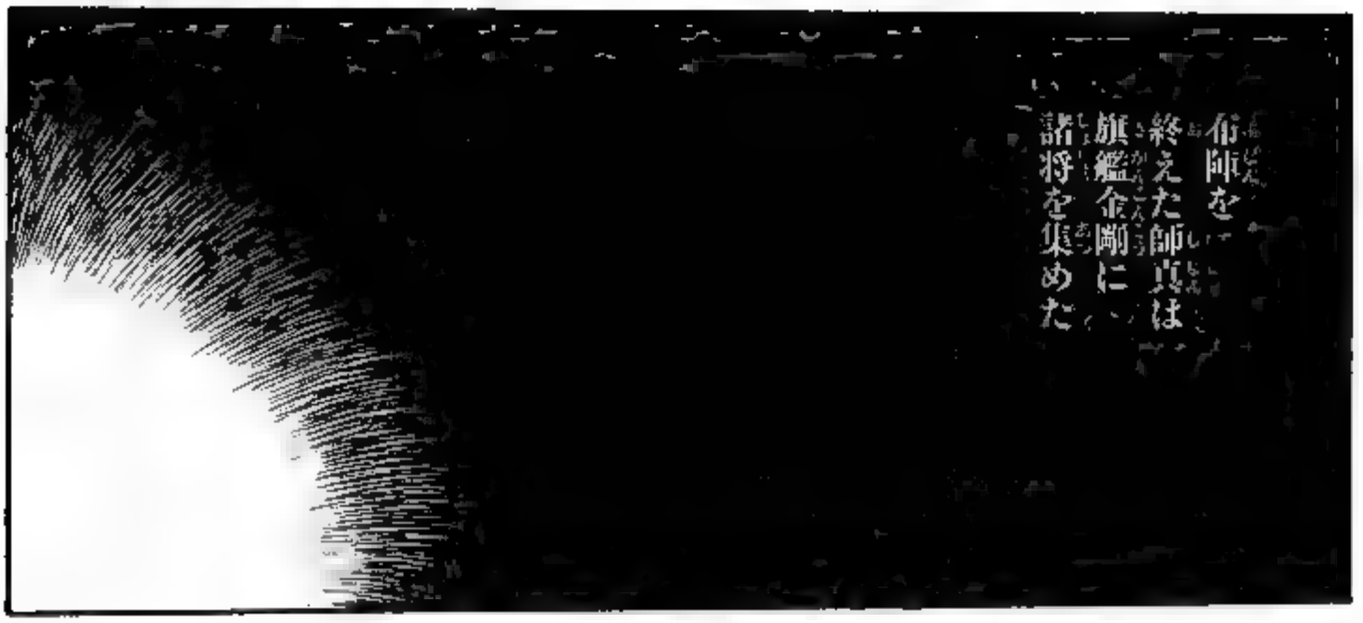

多くの群雄が
しのぎを削った
戦国時代を
勝ち抜いた
若者二人によって
いよいよ
銀河統一を懸けての
決戦が始まろうと
していた


六紋海にて
互いに三十海里の
距離をおいて
布陣した
両軍の兵力は
五丈軍
基幹戦力
六個軍団
兵員七百二十万

一方、南天軍、基幹戦力、十八個軍団、兵員二千六百万

これだけの
規模の軍勢が
ぶつかり合うのは
銀河史上
初めてである
まさしく
天下分け目の
大決戦であった

ふん……
教科書通りの
布陣か……
この程度なのか？
雲子島


布陣を
終えた師真は
旗艦金剛に
諸将を集めた

諸将よ
いよいよ決戦の時が
参った!
南天軍は強大
厳しい戦いになろう
だが皆が
勇を奮い
心励ませれば
必ずや南天軍を
討ち破り
羅候を虜に
できるだろう

作戦の概要を説明する前に今一度ここ六紋海の地形を頭に入れていただきたい
まずこの海域に入る時見たように入口の六つの海峡のうち三つは大江が通っている
ここの大江は流れが速く大型艦でも通過は無理だ従って実質入口は三つだ
大江？河ですかい？
そうだ巨大な宇宙気流だ
その流れに沿うようにそれぞれ性質の違う五つの惑星がある
まず 水の星

岩の星
森の星
雲の星
そして泥の星
それらが四つの太陽の動きに連動し複雑な動きをしているのがこの六紋海だ
へぇ〜〜〜ずいぶんややっこしい所なんだな〜〜〜
その分兵を動かすには適しているということですな
孟閭どのおぬしは二百万の兵を引き連れ正面より敵に挑んでくだされ
ははっ!!

鐘士元 姚文
両将軍は
それぞれ百五十万の
兵を率いて
左右の敵に備えよ

はっ！

ははっ!!

裴伯！

はっ…はい
ここに
控えております

おぬしの
巨砲は
本営直轄の
独立遊軍とする

各戦区で
帝虎級に一撃
与えてすぐ移動せよ
決して沈めようと
考えるな

敵を混乱させる
ためにも
所在地を
捕まれては
ならん

その後は
岩の星に潜んで
海峡を封鎖せよ

はは っ！

孟起(孟闔の息子)!
はっ!!
おぬし
工兵十万を率い
沈船などで
南の大江を
堰止めよ
お言葉では
ございますが
この大事な決戦!
もっと槍働き
できる役柄を
お申しつけください
こらあっ
孟起!
半人前のくせに
軍師殿の
命に従えんと
いうのか!!
父上!
そうは言われ
ますが
武将たる者
敵に一番槍を
打ちこむのが
望み!
そのような
土運び
だれか他の者に
ご命じください
ええい
だまらんか!!
いいえ!
だれが
何と言おうとも
いやで
ございます!
まあ
まあ
孟闔殿
孟起よ
槍を打つのは
兵の仕事
戦略拠点を
押さえるのは
将であり都督の
仕事だぞ
戦略拠点…!

そうだ
この大江を堰止められるかどうかで
この戦いの
帰趨は決まるのだ
この任務
軽々しく
考えてもらっては
困る！
軍師様に
そう言われて
納得しました
つまらないことを
申して
失礼しました
アホうが！
陳群も
十万の工兵で
残る二つの
海峡のうち
この泥の星の
海峡を機雷で
封鎖せよ
はは っ!!
呂朱
鍾才
おまえ達二人は
外海に出て
敵補給路に
迫れ！
ただし
敵護衛隊と
一戦交えたら
すぐに引きあげろ
は？
敵補給路を
寸断する
のでは
ないのですか
そう羅侯に
思わせるだけで
充分だ
可燃物を
積みこみ
艦ごと燃やせ
よーく戦場から
見えるようにな
なるほど
わかりました
うまくやります

如晦と林は
それぞれ三十万の
兵を率いて
後陣左右に
控えてくれ
はい
はい！
おいおい
おい――っ!!
竜王様の行く所
常に先鋒を
まかされてきた
俺に何の
命令もねえ！
肝心の決戦に
寝てろとでも
言うのかよ!!
ばっ!!
落ちつけって
今話す
これを見ろ
雲の星だ
この星は四つの
太陽の動きのせいで
一日三回も昼夜が
逆転する
おぬし
この夜の闇に
隠れて敵の通過を
待ち攻撃せよ！
こんなところ
敵が通るんですかい？
ああ
それも
大軍団だろう

南天は
豊富な兵力を
強みにして
必ず我々を包囲
してくる
雲の星を
廻るのが
最短コースだ
囲まれたら
我々は
おしまいだ!
頼むぞ…
項武!!
おうっ
まかしてくれ!!
軍師殿
一つ質問して
よろしいでしょうか
うむ
なんなりと
布陣は
それでよろしいとして
敵は余りに強大で
ございます
軍師殿には
すでに必勝の策
ありとみました
ぜひそれを
おうかがい
いたしとう
ございます
でなくては
我ら手探りで
戦うような
ものです

そうです
決して機密を
漏らしたりは
いたしませぬ
我々を信じて
くだされ
ははは
もちろん！
俺が皆に
計を話さぬのは
この六紋海の
複雑な地形の
ためだ
刻々と変わる
星の位置
河の流れ…
下手に先入観を
持たれて
動かれると
逆に混乱するやも
しれん！
各々方は
あくまでも
わたしから発せられる
指示のみを
守って行動して
ほしい！
わかりました
我ら
軍師の必勝の策に
万全の信頼を
おいています
我らは
駒となり
軍師の手足と
なって
働きましょうぞ！

竜王様
皆にお言葉を…
ガシャ
おう！
みんな！
もう
ここに至っては
くどくど話す
ことはない
次にみんなと
会うのは
勝ってここで
勝利の美酒に
ありつく時だ！
武運を
祈る！
ははは――っ!!
こうして
五丈軍の諸大将は
師真の必勝の策を
信じ
出陣していった

師真！

今度の会戦には俺も一軍団長として参加するぜ

いいな！

ありがとうございます実はお願いしようと思っておりました

竜王自ら最前線へのお出ましとあれば全将兵も奮って功を争いましょう

それだけじゃない

……と申しますと

……

あの副将を……

俺自身の手で倒したい！

奴を
この手で討ち倒して
初めて
天下を取った
気分になれる！
……
殿
どうなされました
ご気分が
優れぬよう
ですが……
妙な気分だ……

今 天下を
二分してものは
俺と貴殿だ
御屋形
御正の北伐の時
渡り合った
あの男といつか
決着をつけるのを
夢みていたが…
天がこんな舞台を
用意してくれる
とはな!
殿の威光が
天地を揺さ
ましたか…
ふん!
準備は?
全軍
戦の命令を
今や遅しと
待っております!
ようし!
全軍前へ!!

決戦は
まず
南天軍の前進に
より始まった

総数二千七百万の大軍団が六紋海を埋めつくしその爆音が銀河の星々を奮わした

南天軍動き出しました!!
おうっ!!

俺達も行くぞ!前進!!

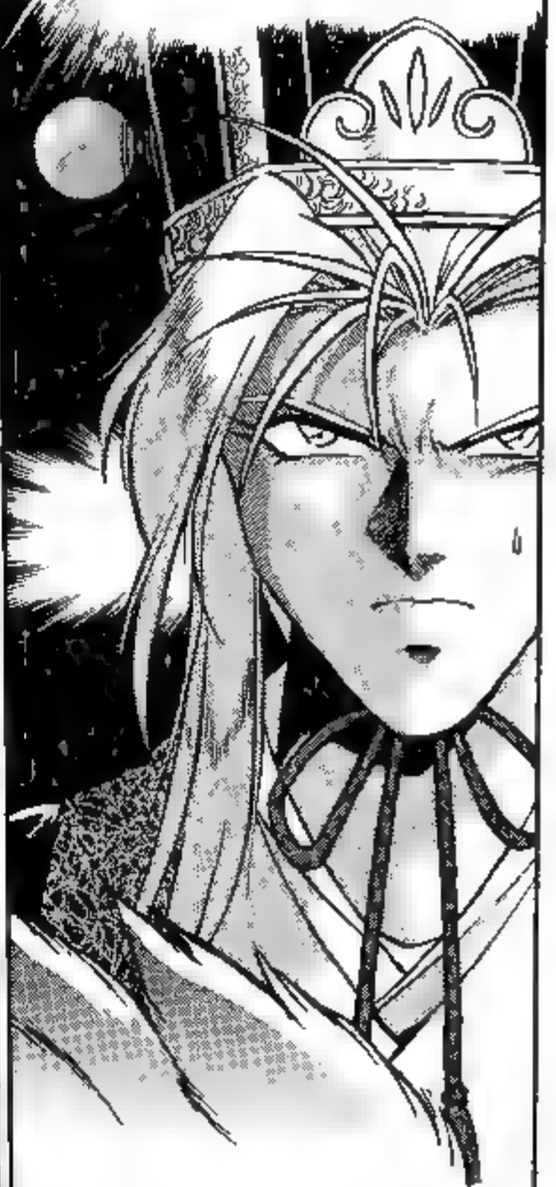
羅候よ
待ってたぞ
この瞬間を!!
長かったぜ竜牙!
きさまと今一度
戦えるまでな!!
現状距離
一万二千!!
まもなく
射程距離に
入ります!!
右舷前衛
準備!!
鶴翼陣形を
とれ!!
取り舵二十!
距離一万!
とちら側で
戦闘を
なさいますか!!
重子艦隊
敵艦隊は
右舷前衛
構えてます!

同航戦だ
右回頭
面舵一杯!!
なにっ
それでは
敵艦に横腹を
さらしてしまいます!
しかも回頭中では
速度が落ちて
狙いうちです!
かまわん!
姜子昌
どーいうつもりだ!?
おいっ!
殿!
わたしを
信じてください!!
この姜子昌
大覚屋師真の
"智"を
"力"で粉砕いたす!

姜子昌の命により南天軍は中軍・右軍・左軍共に一斉に右回頭を始めた
敵が砲撃態勢を取っている時に最も無防備なさらけだすことは戦術上愚策である
たかが姜子昌はこの事を犯したか
敵艦隊右回頭を始めました!!
!!
よーしチャンスだ! 砲撃用意!!
まてっ!!

撃つな？
なぜだ！
連中は
バカみたいに
横腹さらして
通過していく
こんなチャンス
早々おがめないぜ！
一気に
勝負を
つけてやる！
やつらの
進路変更は
我々を誘う
罠だ！
各軍団長より
電文！
「砲撃命令は
まだか」!!
皆
命令を
待っています!!
師真!!
いや…

師真は命令変更を
一瞬ためらった
姜子昌の策が
五丈軍から機動戦の
余地を奪い
砲撃戦で雌雄を
決するのが目的と
見破ったのだ



わかってはいながら
数では圧倒的に劣る
五丈軍としては
兵士の戦闘意欲の
爆発に期するものが
あった
命令変更によって
それが削がれるのを
師真は嫌ったのである

このためらいが
五丈軍の
苦闘の始まりで
あった

!!
しまった…!!
やめさせろ!!
砲撃を中止するんだ!!

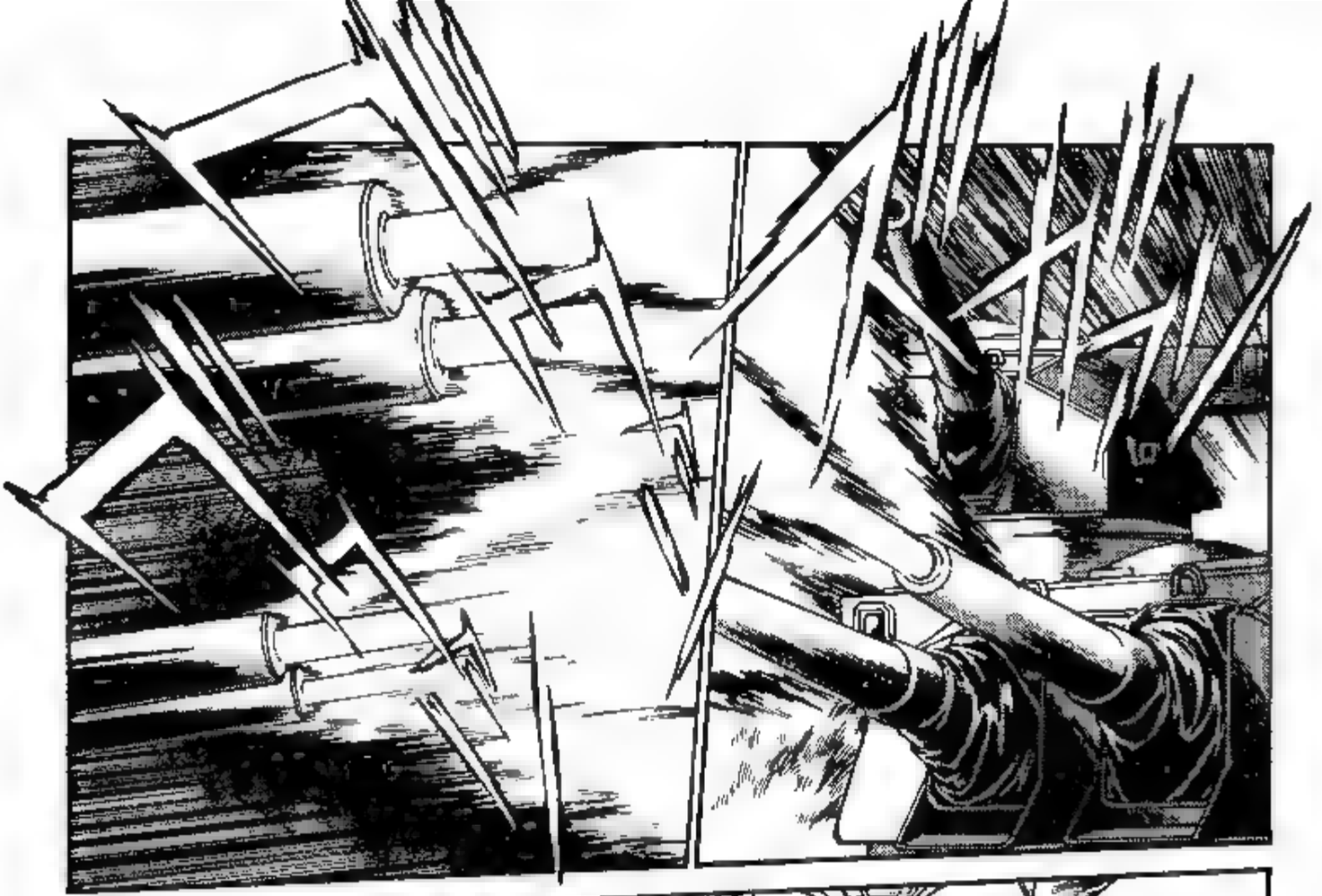
だがすでに手遅れだった
先走った一中隊に続いて全艦隊がそれに誘われるように砲撃戦の火蓋を切ったのであった
ドカーン
ドカーン

耳なりのごとくような
砲声が轟き
五大艦隊の十二砲が
咆哮し
一斉に
唸りをあげて
南大軍に
突き刺さる
緒戦での勝ち戦で
気を良くしていた
将兵は
いとも簡単に
討ち取れるであろう
獲物を目の前に
さらに興奮し
砲撃停止命令など
まったく届かなかった

うわっ!!
味方に被害続出!
各軍団より砲撃命令を請う電文が入っています!!
あわてるな!
命令があるまでは一発も撃つことまかりならん!
違反した者は斬罪に処す!!
は……はい……!
姜子昌撃たれっ放しかよ!!
殿! 我々はすでに勝ったのです!
なにっ!?

大賀郎部員は
兵の戦闘意欲を
巧みに利用してきた……
今、それが
裏目に出てきたのです！
……
防具、
心配の
しすぎだぞ！
我々は
雲子昌の策に
はまってしまった
……
これか？
どうしてだ
まだ 始まった
ばかりだぜ！
面白いほど
よく命中してるし
敵は無抵抗だ
奴の策は
我々を何としても
正面戦闘に
誘い出すこと

数で劣る
五丈原は
我々と
正面からぶつかる
気はない
うまく攻撃を
かわしながら
地形を利用した
遊撃戦に
持ち込むことだった
艦隊の横腹を
さらすことで
我々にこれなら
勝てると
思わせること
それに
今までの
勝利で気を
よくしていた
我が将兵の
心理が加わった
我々が最も
避けなくては
ならない
真正面からの
殴り合いを
始めてしまったんだ！
この
乱射状態では
しばらくは
俺の命令も
耳に入らん！



まさしく
「肉を斬らせて
骨を断つ」…！
しかも
互いが並航して
進む同航戦では
長時間の砲撃戦が
可能だ

姜子昌は
数が物言う
砲撃戦で
雌雄を決する
気だ！
じゃあ
今の敵の
沈黙は……
そうだ
全軍の
回頭を待って
いるんだ

そして
それが終わった
時……
姿なきの
殺気が効いたのか
南天七隊は
被弾しながらも
黙々と回頭を
続けた
そういうことか
姜子昌！
それなら
我慢のしがいも
あるってもんだ
正面きっての
殴り合いってのは
俺も好きだぜ
なんのかんの
小細工するよりな！
師真に
小細工の時間を
与えません

一方
五丈軍の方は
砲撃が
次第に下火に
なっていた

全軍団の
発砲で生じる
硝煙と命中による
爆煙とで
急激に視界が
悪化したのだった

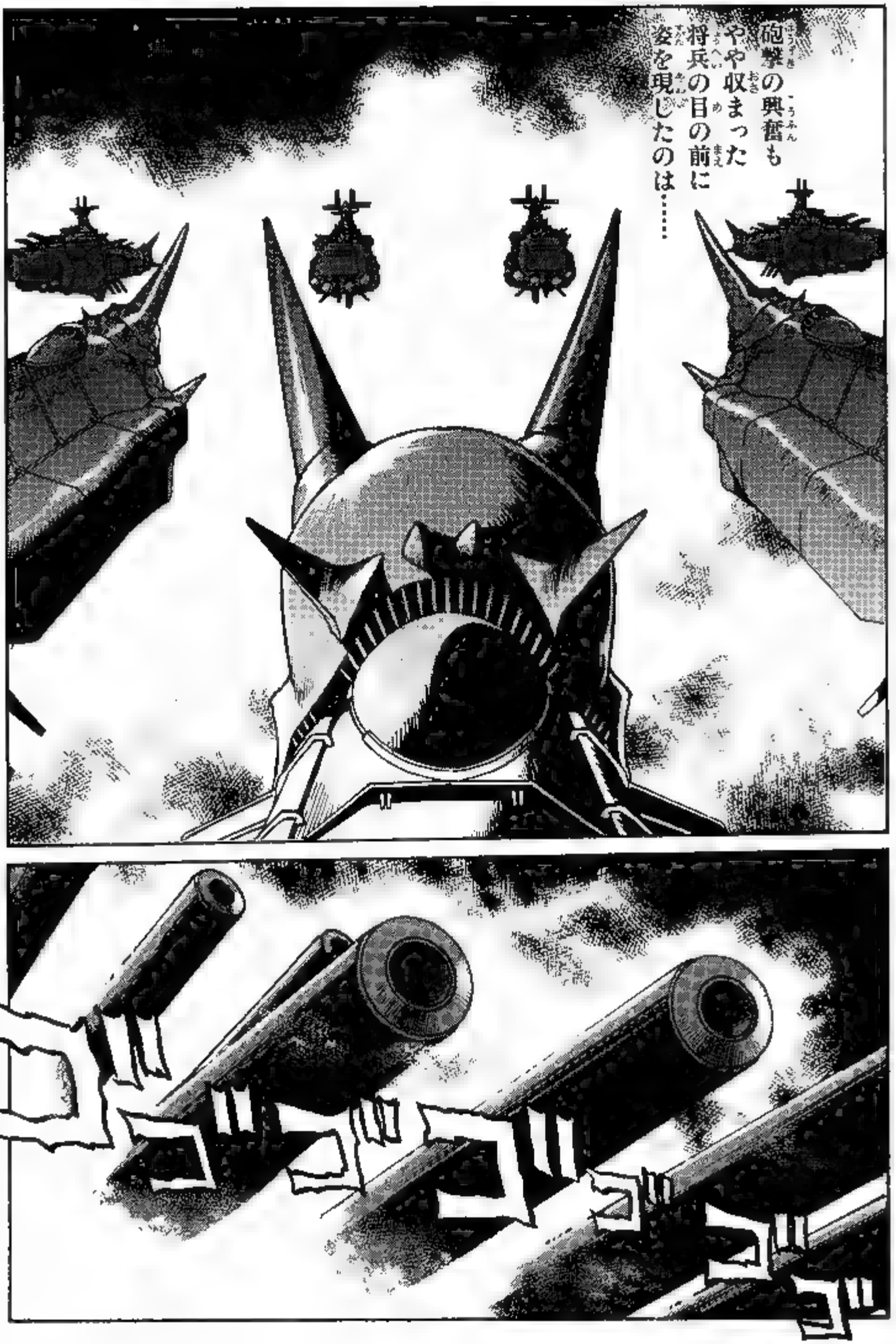
自然に
砲撃はやみ
戦場は濛々たる
砲煙と
異様な静けさが
支配した

我に返った
各指揮官の
許に
師真からの
砲撃停止と
陣形変換の
命令が
ようやく届く

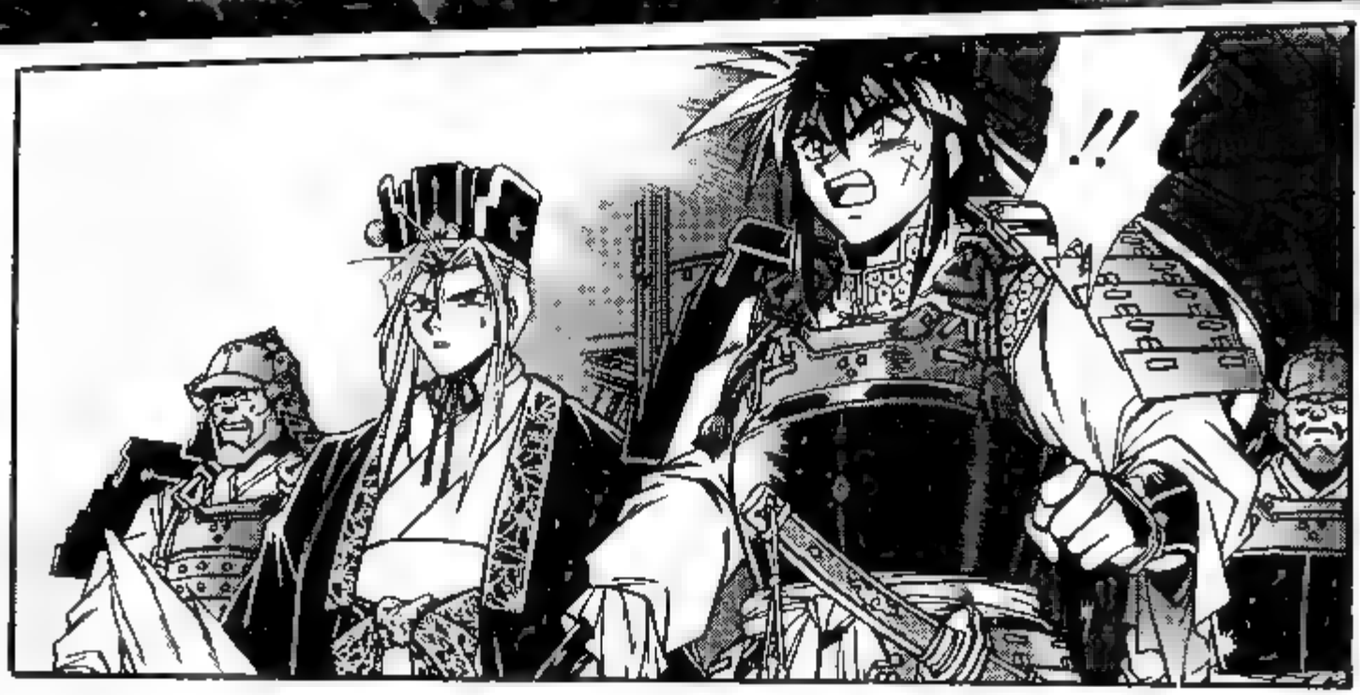
彼らも
事態を
すぐに
呑みこんだ

しまった…!!

むむ…!!


砲撃の興奮も
やや収まった
将兵の目の前に
姿を現したのは……

砲撃準備を整え全砲門を五丈軍に振り向けた南天の大艦隊であった!!


!!

撃てえ——っ!!

うおっ…!!

ぎゃあっ!!

うわっ!!

五丈軍の
砲撃に耐え
満を持した
南天軍の砲撃が
五丈軍を
打ちのめした
装伯の巨砲も
混戦の中で
発砲機会を失い
損傷する
始末であった

態勢を
立て直せ！
陣形を
崩すな！
!!

南天軍は
金剛以下
軍団・師団の
旗艦に特に
砲火を集中した

そのために
五丈軍の
指揮系統は
ズタズタに
寸断された

ゴオオオ
統文様
旗艦を
お移しを!!
おのれ~~~!!
通信手段を
全てやられました
信号灯火
信号旗も
焼失!
旗艦としての
機能を
失いました!
やられたな…
師真!
おそらく
他の将軍達も
同様だろう
おいつ
大丈夫か
師真!!
竜王様!
おいつ
衛生兵を
呼べ!!

兵法にもある……
「まず敵将船を破る
しかるのち我が全力を
もって敵の分力を
撃つ」とな……
基本をしっかり
守ってやがる
姜子昌の奴…!!
敵艦隊
接近!
斬りこんで
きます!

これが
南天の力よ！
思い知ったか〃
だが
これからだぜ
さあこい！
踏みつぶしてやる〃
殿！
ここは
おまかせ
いたしますぞ
おう！
…でおまえは？
わたしは
自分の艦に
もどり
殿に勝利の
献上品を
用意して
まいります！
雷！
部員！
白兵戦が
始まる前に
会場を降りろ！
今の会場じゃ
全軍団の指揮を
執るのは無理だ！

俺は総大将としてここでやることがある！
おまえはここを離れて全軍の指揮を執れ！
わかった…
そうしよう…
師真！
戦いはまだ始まったばかりだ
おまえなら失敗をそれより大きな成功で一挙挽回を図れるはずだぜ！
期待には背かない

……
ゴゴゴゴゴ
軍師様！
後方二十里まで見渡せる全軍が一望できる位置で指揮を執る

総撃戦を
完全に制した
海人軍は
勝ったも
同然だ
一度に一度に
取り囲む様に
ここに
敵が物をいう
どけどけ
どけ——っ

我の旗艦を捜せ!!
かかれ――!!

…に伝令を送れ！
予備師団を左翼に送りこむんだ
曹伯の巨砲は予定より早いが岩の陰に…
うわっ!!
な……なんだ!!
おおっあれは……あれは――っ!!
!!

離艦隊だ!!
一個軍団はいるぞ!!
帝虎組戦艦もだ!!
まさか……

待っていたぞ！
俺の獲物はおまえしかいない……！
大覚屋師真……!!

軍師様！
城に大将首
雷子昌と
ありまする！
雷子昌…
今頃
やつは
その素晴らしい
頭脳とやらに
問いかけて
いるだろう
とうして
自分の策が
見破られたかと…
だが最後まで
答えはでまい！
古来より
軍師は
相手の城の
その奥いて
嘘をわけるという
それだけではなく
人物が
何を考えているかも
手に取るように
わかるのだ！

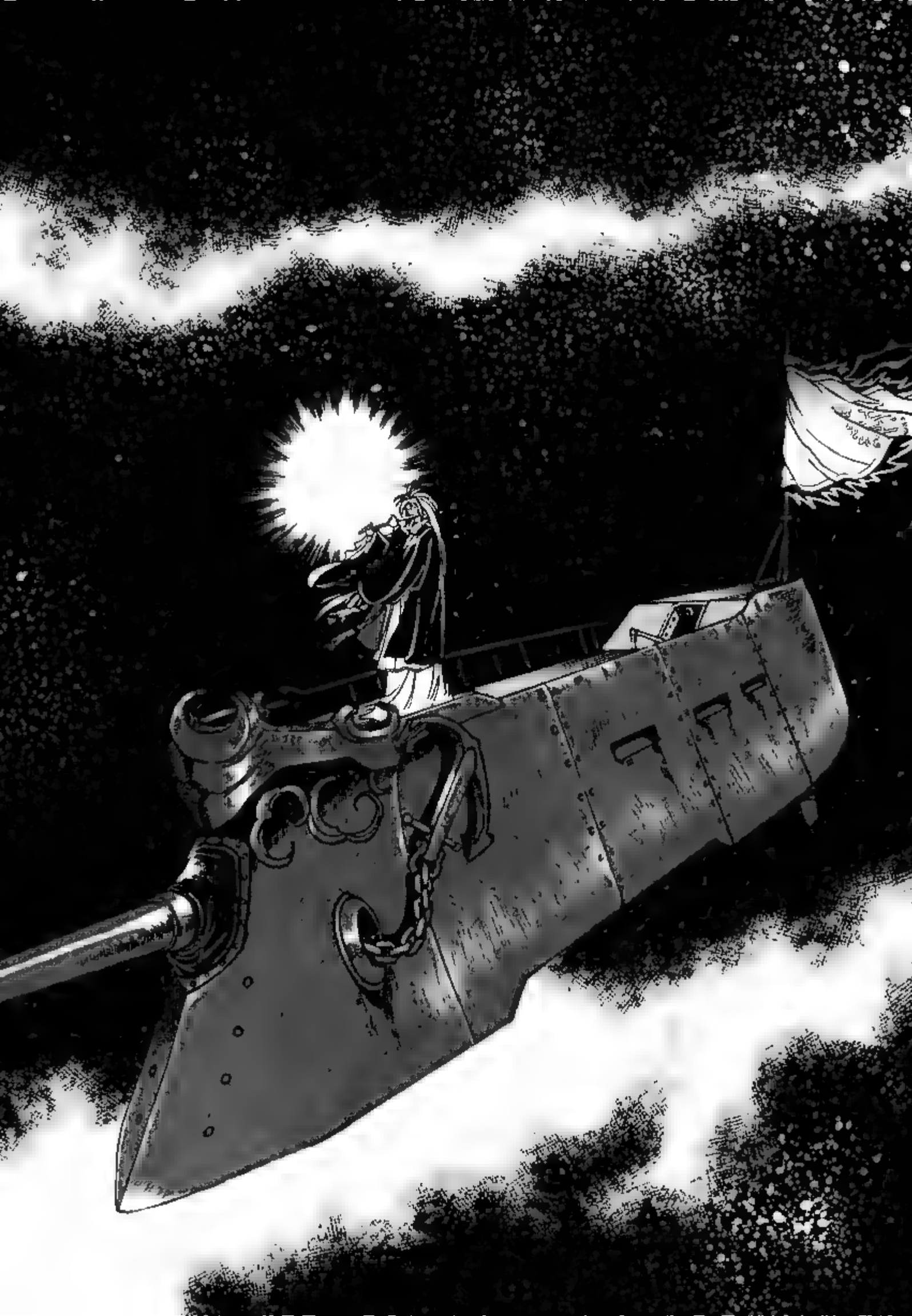
あの天才に
欠けている部分は
まさにそれだ!!
ふ……
ふふふ……
ふはは……
ぐ……軍師様……
な…なにが
おかしいので…
いや
失敬
ただ
うれしくてな
う……
うれしい!?
そうさ!

俺が命を
懸けて
知謀の勝負を
挑む相手が
現れたのさ
竜王や羅侯
そして正宗が
その全てを賭けて
覇を争うのと
同じようにな
銀河という
俺の将棋盤の
向こうに
初めての対戦相手が
ようやく
座ってくれた！

敵軍
前進して
きます〃
！
そ…機転手！
右回頭
急速反転〃
まていっ〃
動いては
ならん！
機関を
停止させ
罐の火も
おとせ！
そ…それでは
軍師様！
まさか
投降を
お考えで…〃
将兵は
自分の持ち場を
離れるな！
甲板上に
決して人を
出さず
心静かにして
俺の命令を待て！

命令に従わず
みだりに立ち騒ぐ
者があれば
軍法に照らして
俺が斬って
捨てる!!
大都督
敵艦は停止
しました
艦上に人影も
見えません!
ふふ……
進退窮まって
投降する
つもりか
勝利を
完璧にするためにも
奴を生きたまま
殿に献上するのが
俺の望みだ!

ん？
なんだこの音は…？
ふ…笛の音のようでございますが……
あっあれは!?
大都督ごらんください！
!!



師真(しん)!?

これは
どういう
ことだ
師真…！
この窮境に
追いつめられ
ながら
ゆうぜんと……
はっ！
やつの戦い方は
常に不敗の地を
とることにある…！
結戦での
敗北をこの俺を
討ち取ることで
覆そうと
考えたならば……
罠にはまったのは
この俺の方
なのか!?
いや……
そんなことは
ない……！
追いつめたのは
この俺だ…！
奴は今
俺の手中に
あるはずだ……！
だが……

商人あがりで
戦場の臭いも
知らずに
生きてきた
文官のあやつに……
次戦艦の上砲に
兜割られる中
笛を奏でる度胸が
あるのか……!!

大都督様
あんなのは
こけおどしです！
我々を
愚弄するにも
ほどがある
吹き飛ばして
くれる!!
待て!!
姜子昌は
耳を澄ませて
その音色に
聞き入った

姜子昌様……

寸分の乱れもない調べだ……

自信か……！揺るぎない策への自信が狂いのない音色を生みだしているのか……!!

ええい何を迷う姜子昌!!

捕らえることが出来れば殺すまで……!!

いやたからこそ今ここで討ち取っておかねば後々我が殿の覇業の災いとなる！

生かしてはおけぬ男……

第一砲塔
第二砲塔
射撃用意!!

射撃準備
よし！

この腕を……
この右腕を
振りおろせば……
奴は
跡形もなく
消し飛ぶだろう……！
だが
なぜだ……！
なぜ俺は
この右腕を
振りおろせない……！

!!
!
この調べは……
曲調が
変わったぞ
これは……
練の葬送曲……!!
姜子昌の
全身に
冷や汗が
流れた
姜子昌様
あれを
ごらんください!
あちらにも
灯りが……!
明滅して
連絡を取り
合っています

……雲子島様……！
逃げっ！

な…なんと…!!
何を言われます!
敵はほれ
たった一人でございますぞ!!
おまえ達には
わからぬのか……
あの男の後ろに
数百万の敵軍が
ひかえているのが……
俺には
それが
見えるのだ…!
?
師真のような
理詰めの男は
決して一か八かの
賭けはせぬもの
この大軍団を
前にして
一糸乱れぬ笛の音は
必勝の策ある故だ
しかし…!
ここで
我々が壊滅すれば
圧勝しつつある
中軍にも
影響がでよう
そうなれば
殿に
申し訳が
立たぬ

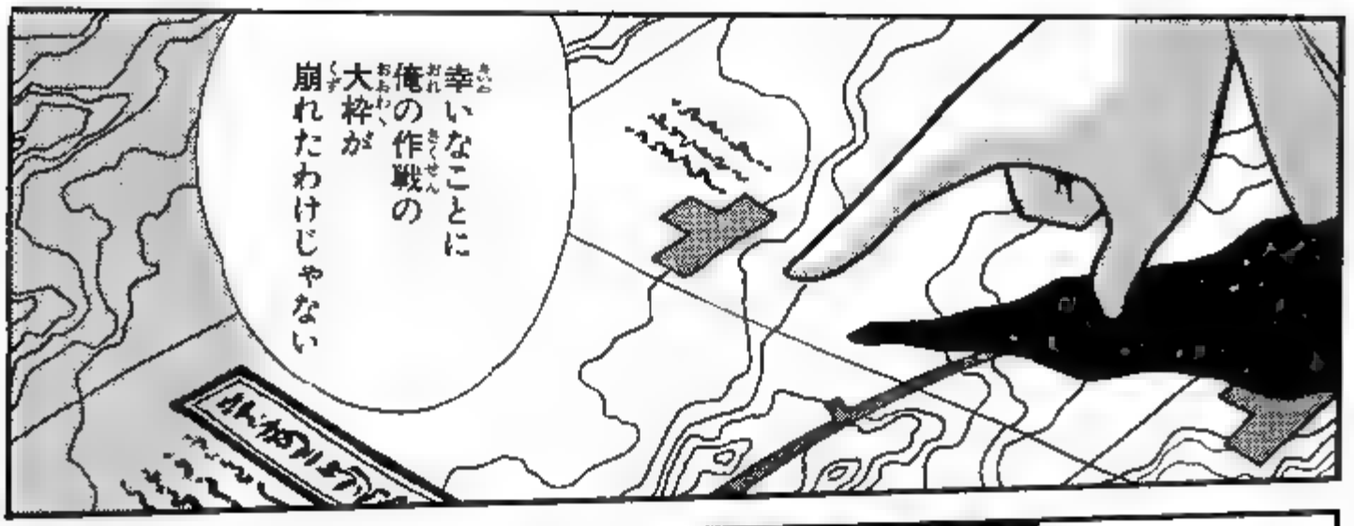
それに
まだ奴との
戦いは
始まったばかりだ！

ふあああ
軍師様！
軍師様 おケガは!?
ふふふ……

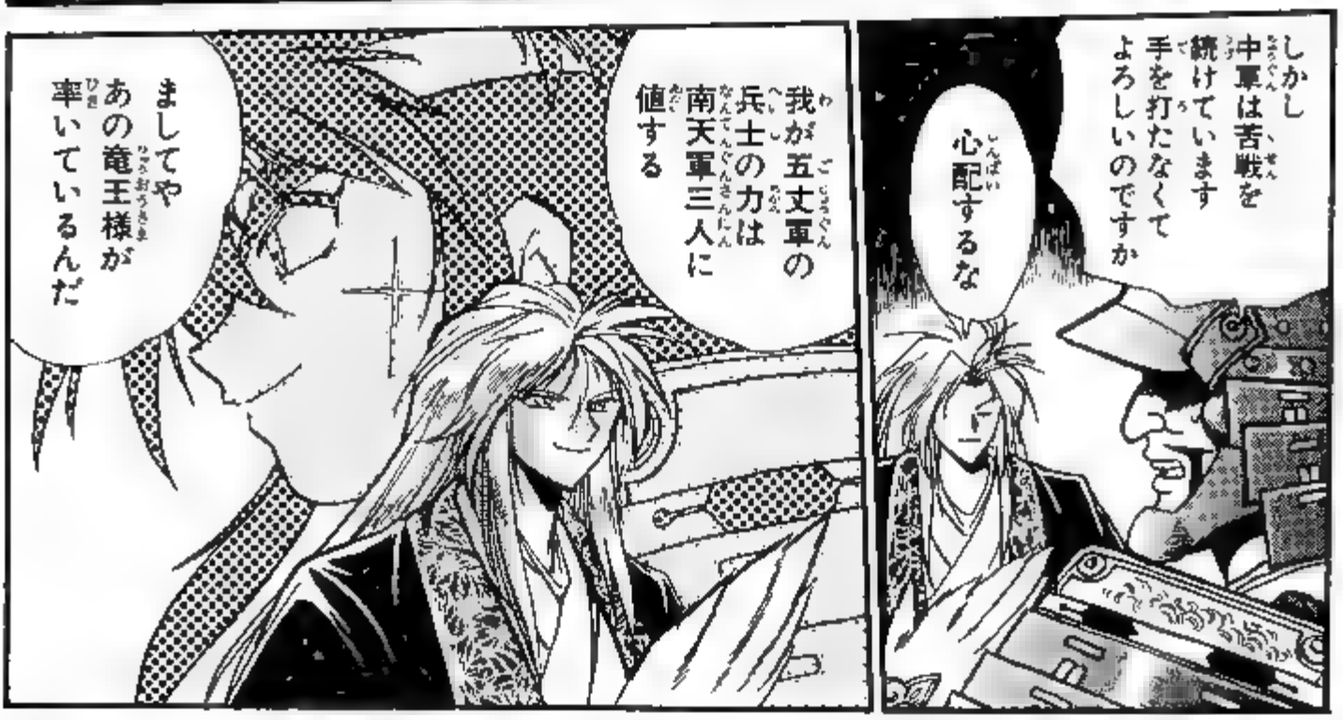
腰がぬけた……
おこて…
わかりませぬ
姜子昌は
知勇に秀でた
南天の総大将
あれだけの大軍を
率いた その姜子昌が
軍師様の笛の音
ひとつで退くとは……
姜子昌は
自分自身の
智に負けたのさ
自分の心を
測りすぎた
ようだな
そ……
それは
どういうことで？

兵法にも
戦の道は
心を攻めるのが
上策とある
奴は俺が用心深く
常に不敗の戦を
すると
思いこんでいた
その軍師様が
あのような奇策に
出たので策があると
いぶかったのですな
俺は今だって
不敗の戦を
目指してるさ
今回は
絶体絶命の
危機で
是非もなく
とった策だ
追いつめられた
からこそ迷いなく
この策がとれた
姜子昌から見れば
さぞかし
自信があるよう
見えただろう
心の戦いこそ
武器の戦いに
勝るもの
姜子昌……
恐るべき相手だが
惜しいかな
笛の音ひとつで
勝機を捨てたな

それにしても
見事な調べ
軍師様に
このような風流な
特技があったとは…
バ――カ
楽器のひとつや
ふたつこなせないで
女を口説けるかよ
おまえ達も
少しは たしなみ
なって!
まあ もっとも
姜子昌がそういう
たしなみのある
花も実もある
武人だからこそ
成功したんだ
他の連中なら
躊躇なく
俺を
吹き飛ばしたろ
いやあ
感服しました…
敵将の性格まで
読んでおられるとは…
しかしまだ
これからだ…!
中軍の苦戦を
好転させねば


幸いなことに
俺の作戦の
大枠が
崩れたわけじゃない

緒戦に
物量差で
叩かれることは
ある程度
折り込みずみだ
ここはひとつ
冷静になって
綻びを縫い
繕うより
作戦の完遂を
目指した方が
賢明だな


しかし
中軍は苦戦を
続けています
手を打たなくて
よろしいのですか
心配するな
我が五丈軍の
兵士の力は
南天軍三人に
値する
ましてや
あの竜王様が
率いているんだ

師真の言葉通り
圧倒的な兵力差にも
かかわらず
五丈軍はよく
持ち堪えていた

突撃戦での
手痛い打撃は
兵士達の戦闘上での
経験で教われた
指揮系統が
失われた状態でも
彼らはどう闘うかを
身体で知っていたのだ
自分の
所属軍団
師団でなくても
旗艦の許に
集結し
陣形を整え
南大軍に挑んだ
またそれは
各軍団長も
同じであった

彼らは単に
戦場を縦横に
駆け回り
活用されてない
兵力を適所に
送り込む
また機を
窺っていた
林と如海は
ここが
正念場と
増援を
投入した
その後陣軍団は
雲海に率いられ
側面から突入
うおおおっ
待っとれ
雷!!
こうして
崩壊寸前の前線は
各戦士ひとり
ひとりの能力で
少なくとも対等に
渡りあえるように
なっていた

よし!!
特大の大将旗を掲げろ
陣太鼓を打ち鳴らせ!!

おいっ
見ろよ
あれは…
竜王だ！
竜王様!!

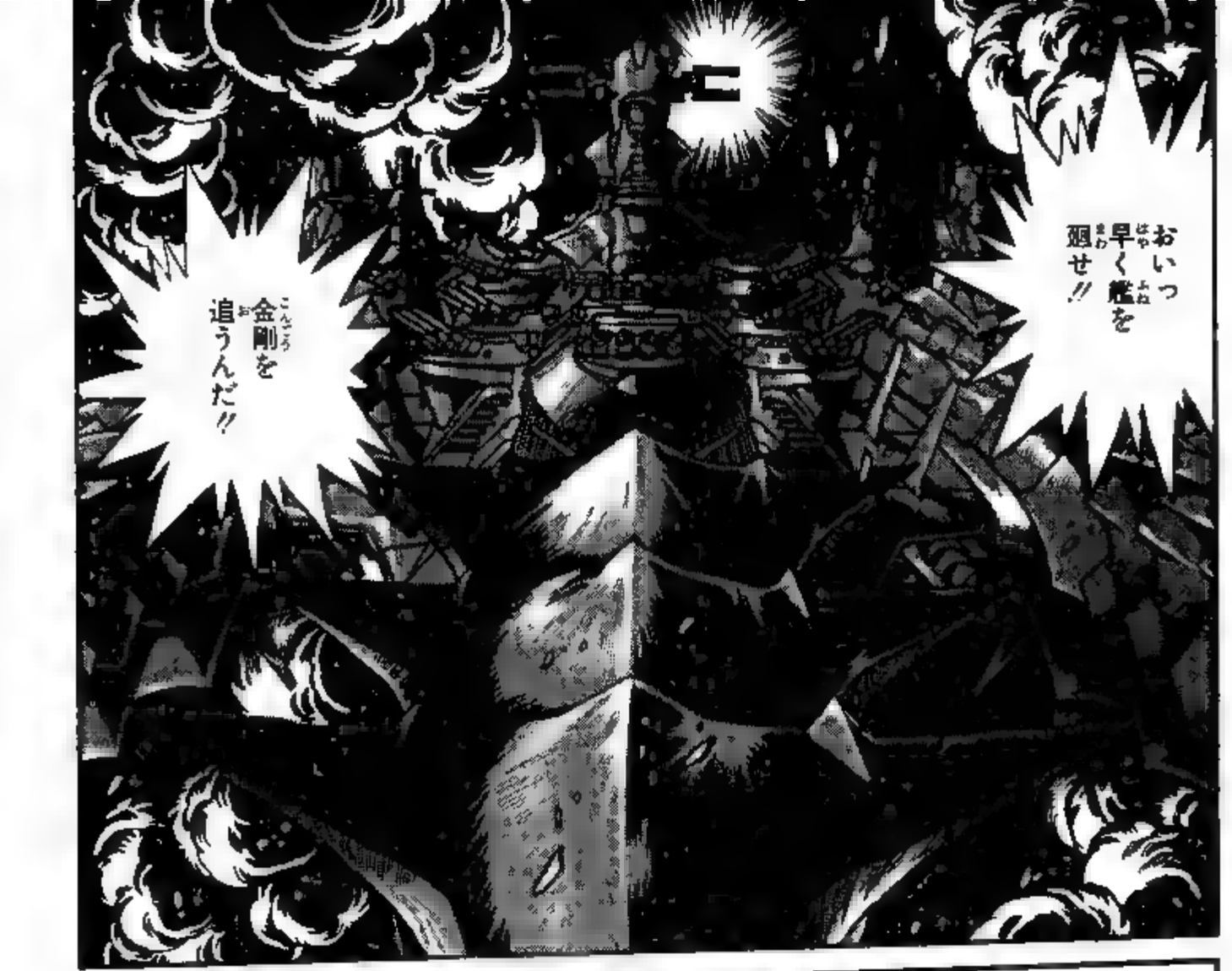
雷は全戦場で陣太鼓を轟かせ旗揚げ以来の宿将・ベテラン兵の名を呼びながらその敢闘を称え

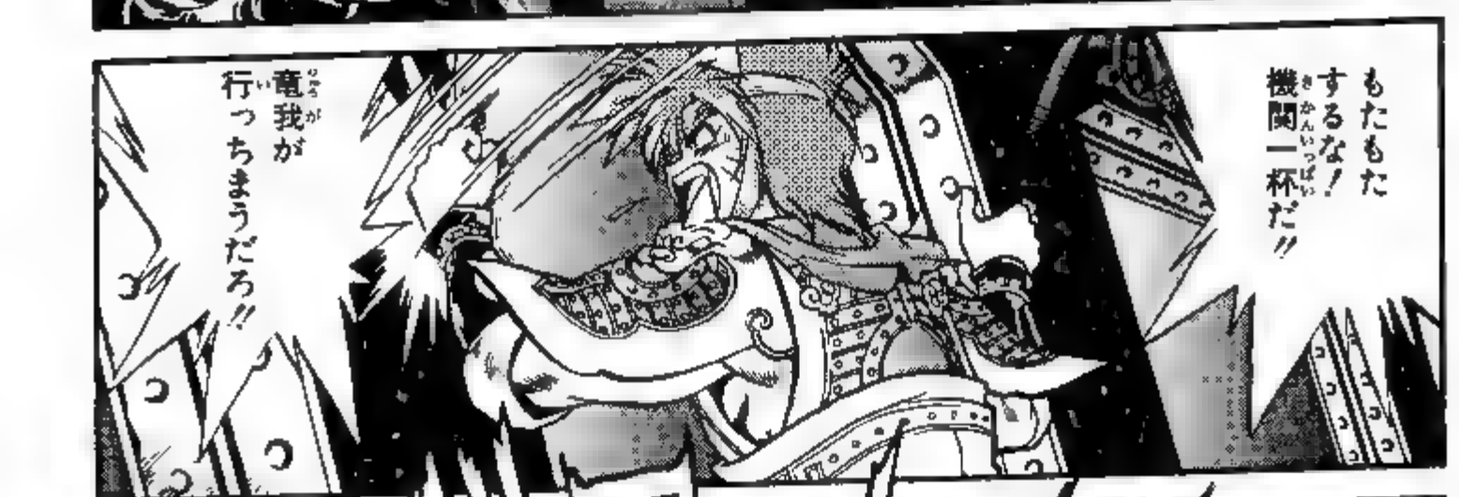
また初陣の新兵達には先輩達の築きあげた無敵の五丈軍の栄光に恥じない闘いぶりを期待すると激励した

敵弾飛び交う中あえて目立つ姿で全軍を鼓舞して回る雷の姿を見た兵士達は

総大将のいかなる状勢にも動じない自信あふれる態度に勇気づけられ自らの自信も取り戻したのであった

竜我!!
とうとう
見つけたぞ
竜我雷…!!
ふふ……
ふはははっ!!


おいっ
早く艦を
廻せ!!
金剛を
追うんだ!!


もたもた
するな!
機関一杯だ!!
竜我が
行っちまうだろ!!

ええいっ
前を開けねえか!!
どけどけ
どけ――っ!!

邪魔する奴はかまわねえからふき飛ばせ!!

わっはぁっはっはっ
ゴゴゴゴ
な……なんだ!?今のは!!
久しぶりだな雷!!
少しは腕をあげただろうな!!

どうした
腕を鈍かしたか
ふん！
相変わらず
派手な野郎だぜ
おまえさんはよ！
ええい
覚悟！

おおっ
帝虎が
金剛に……!!
羅侯だ!!
竜王様が
危ない!
早く
艇を漕けろ!!
急げ!!
ゴゴゴゴゴゴ
急げ
早くしろ!!
突撃――っ!!
羅侯を
討て――っ!!
バカ者!!
ひるむな!!

さあ
おいで!!
南天王羅候の妻
邑蛾が
相手するわ!!
いけません
奥方様!
大事なお身体
です!
ご自重
ください!!
平気 平気!
適度な運動は
必要とお医者も
言ってたじゃない♡
羅候の
妻だと!?
おもしろい
生け捕りに
しちまえ!!
それは
どうかしら!!
適度な
運動って……

はあっ!!

はっ!!

ぎゃあああ

てやっ!!
もらったぁ――っ!!

終わりだ
雷!!

我こそは
五丈大将軍
孟開！
そこにいるのは
牛魔王のせがれ
牛鬼と
牛邪王とみた！
返り討ちに
してくれるわ！
いざ
勝負しろ〃
なにおっ〃
ぎゃあっ!!
兄者……
おのれ
よくも〃
ぐわあっ!!

ふん！
そんな
ヘナチョコ矢が
通るか!!
父上!!
単騎での
深入りは
危険です！
ここは
我々に
おまかせを!!
孟起!!

バカ野郎
持ち場を離れ
なにをこんな所で
ウロウロして
やがる!!
林軍師より
火急の事ゆえ
中軍を助けよとの
命を受け
副将に持ち場を預け
駆けつけました!!
ちっ
林軍師も
余計なことを…!
ええいっ
ここは
もういいっ!
竜王様の許に
向かえ!
竜王様に
指一本触れ
させるんじゃ
ねえぞ!!
わかりました
命にかけても!!

ぐぐっ！
ぬおおっ！

けっ
往生際が
悪いぞ
雪!!
あいにく
それが俺の
取り柄でな!!

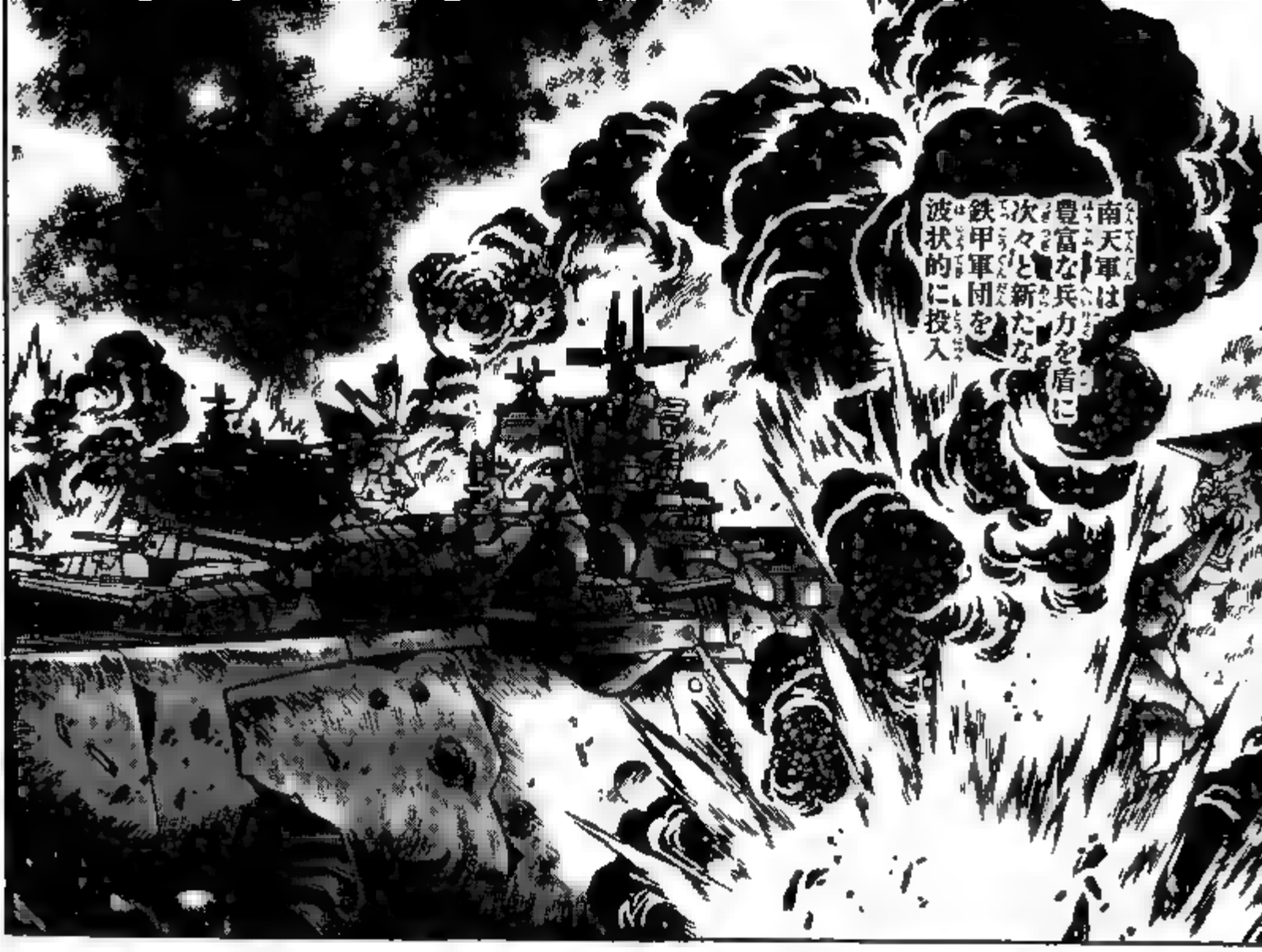
ぬん!!

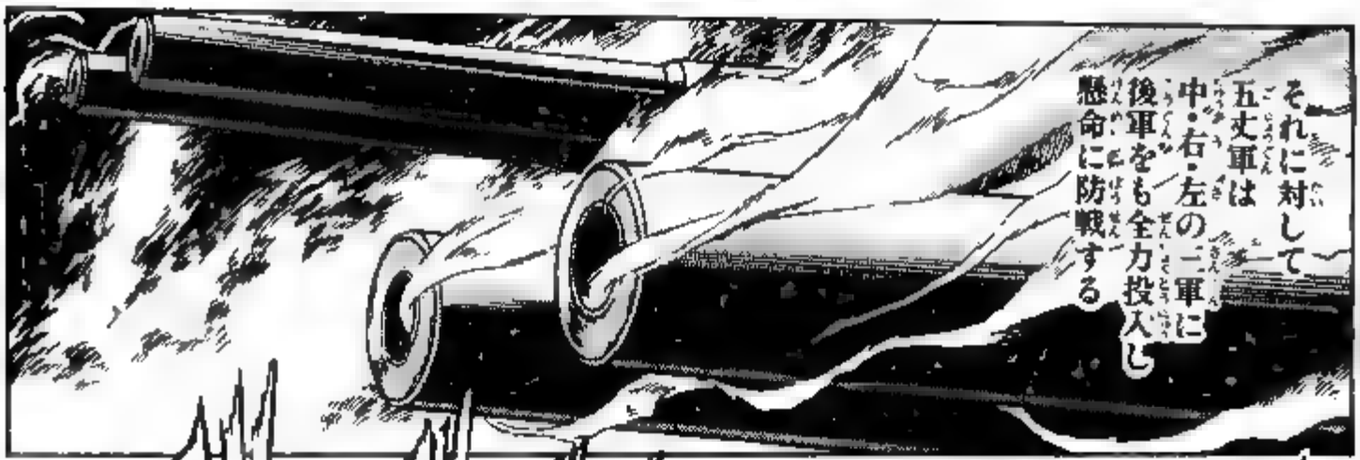
おのれ～～
よくも…!!
お……

羅候!!
その昔 柳正公の前にのおりおまえと斬り結んだが
あの時以来 いつかはおまえと天下分け目の決戦で再び相まみえると思っていた
俺はおまえの胸の思いがわかる! 天下を狙う男の想いがな!
それゆえ共に天をいだくことはしねえ!

俺の天下のために
おまえを斬る！
ふ…
ふふふ
なにを今さら…！
だがおまえの言う通りだ！
雷！
天下に二日はねえ！
お前の首が俺の天下の証だ!!

戦国
なあまあ!
雷と羅侯二人の総大将の対決によって両軍の戦闘は激しさの頂点に達した


南天軍は
豊富な兵力を盾に
次々と新たな
鉄甲軍団を
波状的に投入


それに対して
五丈軍は
中・右・左の三軍に
後軍をも全力投入し
懸命に防戦する

ハイゴォオオ
ォオオ

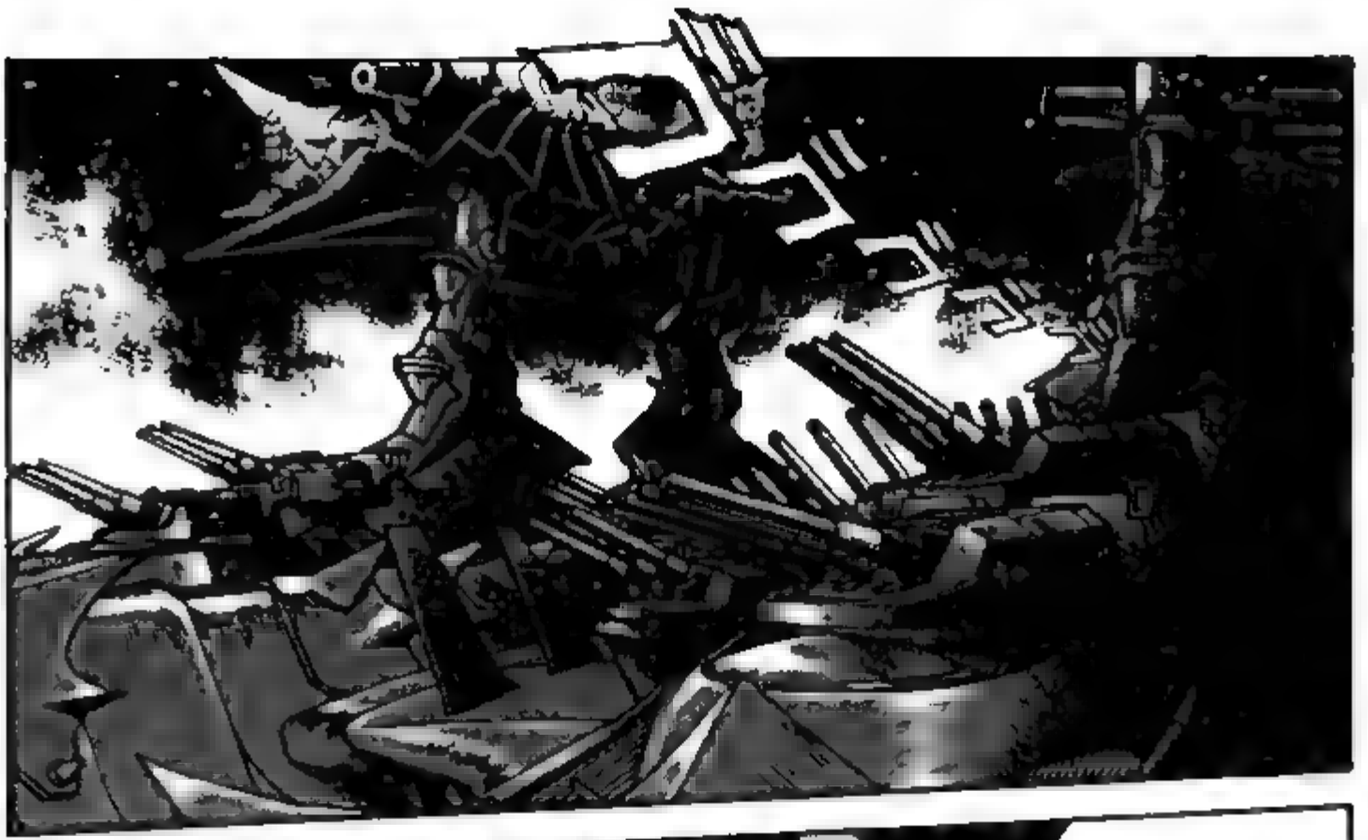
姜子昌乗艦 双虎

お願いします！
今一度
出陣の下知を……
大都督様!!

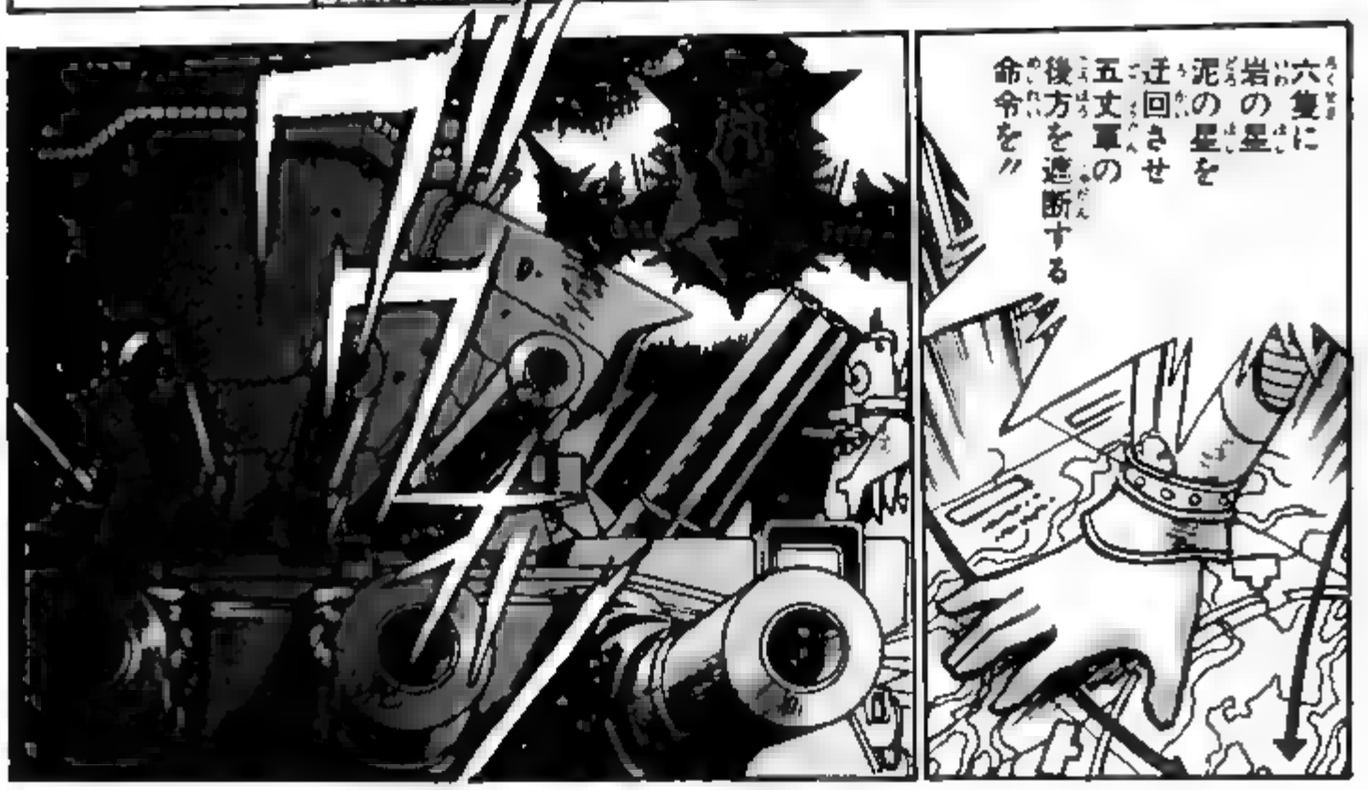
この神楽
白象戦車隊を
なくしたとて
まだまだ戦えます！
なにとぞ
一軍を
お貸しください！
いや
兵など
いりませぬ!!

一兵卒でけっこう!!
なにとぞ…!!
あせるな…!
俺はおまえを一兵卒として死なす気はない
しかし…!!
戦車隊の再編を急げ事はそれからだ
はい…
姜子昌様

三軍とも我が方がはっきりと優勢です
ただ殿が最前線に出てしまわれておもどりになりません
殿の方はよいお楽しみになられておるのだ
はあ…
なにしろ竜我との一騎討ちをお望みであったしそのように手配せよとの厳命である
兵権を預かる俺としてはいよいよ仕上げにかからなくてはならん！
は
五丈軍を包囲殲滅するぞ！
超虎
勇虎
蒼虎
将虎
轟虎
猛虎
以上六隻を戦線から離脱させろ！
チカ
チカ



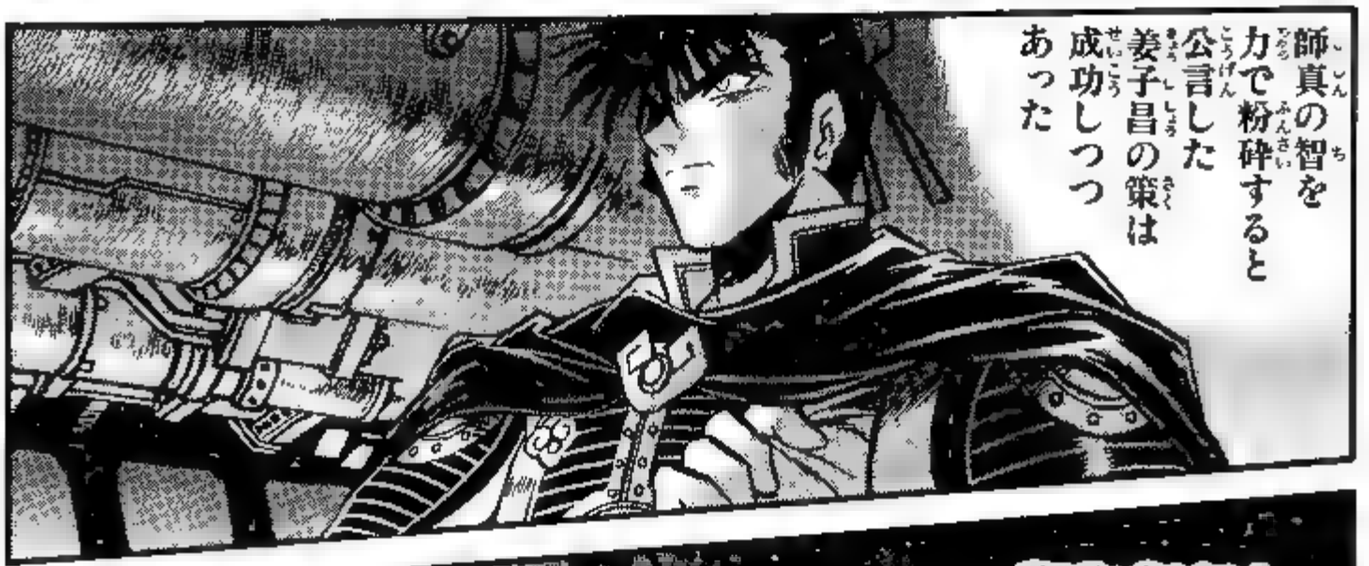
敵が
我々の戦力を
十二個軍団と
思っているのなら
思うつぼだ
なぜなら
帝虎級戦艦の
戦力は
一隻で一個軍団に
匹敵するのだから！


六隻に
岩の星
泥の星を
迂回させ
五丈軍の
後方を遮断する
命令を!!

五丈軍は
絶体絶命の危機に
晒されていた！

本隊が
数で押し包められ
さらに後方が
遮断されれば
後は包囲殲滅を
待つのみである

師真の智を
力で粉砕すると
公言した
姜子昌の策は
成功しつつ
あった



そして
南天の包囲軍を
牽制するために
雲の星の間に
潜んでいた項武軍も

帝虎級戦艦
六隻か……
この量
みてえな
間ん中で
待ったかいが
あったぜ!!
行くぜ!!
うん!!
おいおい
バカに
吹かして
やがる艦が
いやがるな!
こっちの
位置が
バレちまうぞ!
いいえ
将軍
これは……!!
敵艦です!!
なにいっ!!

甘いわ
項武ノ

きさまらの布陣などお見通しじゃ!!
全員夜目の効く兵士で構成されたいわゆる「夜襲部隊」である夏侯猷軍の突撃はすさまじく
伏兵を伏兵された形となりおまけに慣れない闇夜の戦いに項武軍は後退を余儀なくされた
ここでも師真の布陣が姜子昌に破られたのだった
くっそ〜〜!! 親の仇も討てねえのか!! 情けねえ!!
だが……!!

これは…!?
五丈の工作員です
ごらんください
この爆薬筒を
弾薬庫に……!
危ないところ
でした
ぬぬぬ……
なに
工作員だと!?
はっ
夏侯獣将軍が
警戒なされよと…!
わかった……
帝虎級戦艦を
内部から
破壊する気か
……

ズズズ
屋内に敵の工作員だと！
弾薬庫周囲を固めろ〃
分隊ごとに兵士の数を点検しろ〃
怪しい素振りの奴は容赦なく殺せ〃

まずいなあ
侵入が発覚
したみたいだ
警戒が
すごく厳しく
なってきた
それにしても
この艦はどこに
向かってんだろ
えらく
飛ばしてるけど
戦闘が始まった
様子もないし…
トンパチ始まったら
どさくさで
動きやすく
なるんだけど…
これじゃ
弾薬庫にも
近づけやしない…！
けど
兄貴…！
絶対に成功して
みせるよ…！
そして
必ず生きて
もどるんだ！
兄貴の人下取りが
見てえもん…！

ほほう
いつぞやの
チビしゃ
ねえか
〃
どこへ
行くんだ
てめえ……！
ちっ！
この
賊があっ!!

夏侯獣が
項武を撃ち破った
おかげで
六隻の帝虎級戦艦
からなる包囲軍は
易々と長駆
五丈軍後方に進出
できた

飛ばせ――っ!!
五丈軍を袋の鼠に
するのだ!
彼らの任務は
その鼠の入った袋の口を
閉じることであった!
五丈軍に包囲殲滅の
危機が迫る
包囲軍大将 火徳星

賊だ――っ!!
一太刀あびせた!
遠くには逃げられんぞ!!
逃がすな!
もっと応援を呼べ!!
あの野郎最初からどうも様子が変だったんだ!
この猛虎を爆破しようとはふてえこと考えやがる!!
貧乏性の五文銭らしいせこい考えよ!
もう袋の鼠なのによお!
まったくだ!
袋の鼠?
毛の兄貴がやばい

雷の兄貴が……
ドカ!!
大当たり——♡
太助
このやろ——
どこ行ったと思ってたらよ!
へへ——ん
どーだ見えるか太助……!
えーとね……
五丈の殿様が兵隊集めてるって!

ひ〜〜〜!!
行くぜ太助!
え…あ…兄貴無茶だよ!!

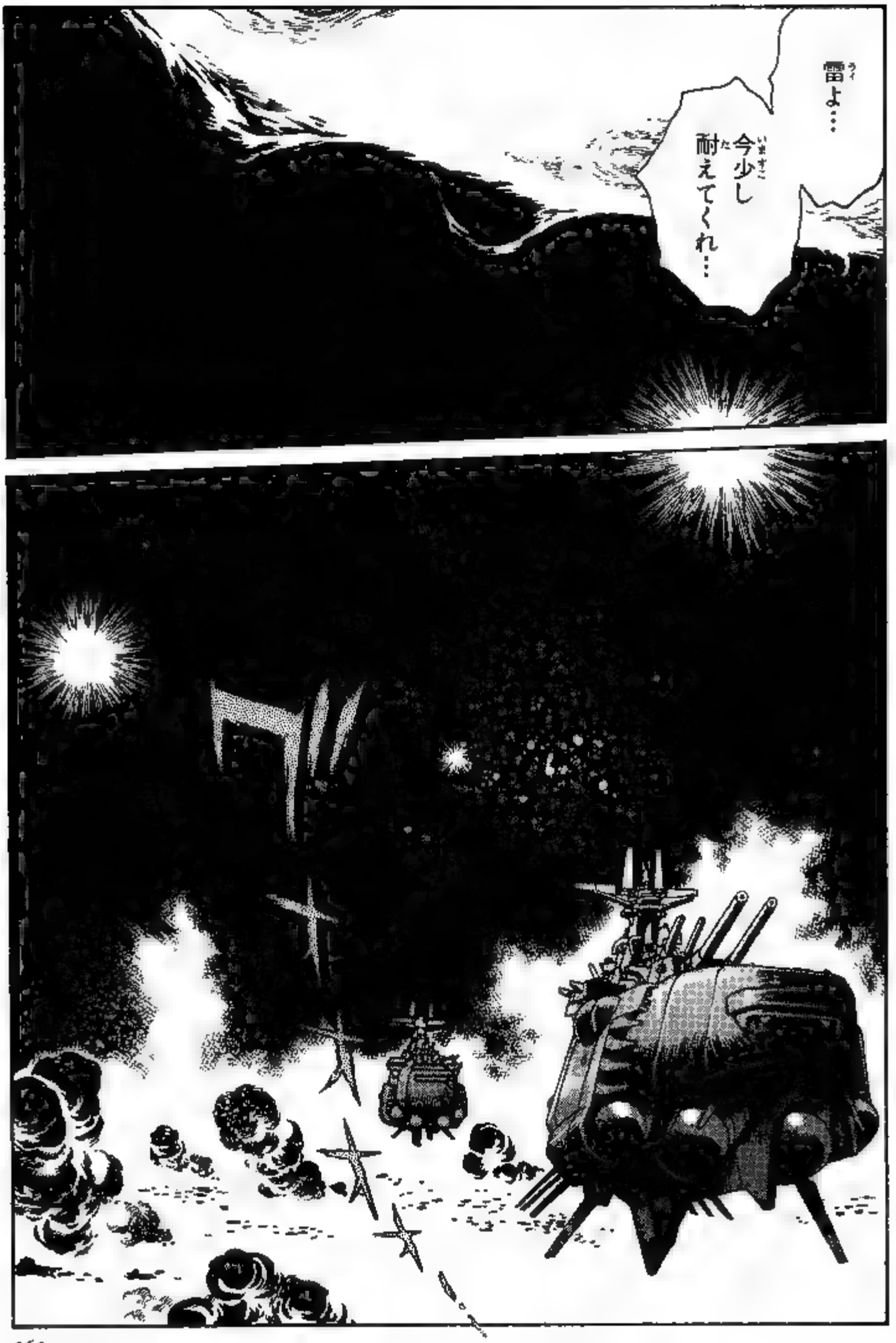
俺の後についてこいって！
あ……
クス…
う…うん！
太助――！

やったぜ!!
うぐぐぐん
ありゃ
ワルド!
雲海!
太助……
勝手に死ぬなよ!
俺達死ぬまでず――っと一緒だぜ!!
まかしとき――っ!

今まで
雷の兄貴は
ずっとおいらを
守ってくれた……
今度は
おいらが兄貴を……
そうさ……
軍師様だって
そう見込んで
くれたんだ
必ずこの
バケモノを
仕留めてやる…！
ボカッ
何！
突破された!?
はっ
項武将軍の方が
逆に伏兵に
奇襲された
ようです！

敵包囲軍は
帝虎級戦艦
六隻のみとの
報告です
伏兵が
伏兵されたか…
しかし
六隻のみとは……
我々をなめて
いるのか！
いや……
帝虎級戦艦は
それを意図して
建造されたんだ
一隻で
一個軍団に
匹敵するようにな
このままでは
包囲されるのは
時間の問題！
早めの後退を
指示なされては！
……
いや……
まだだ！

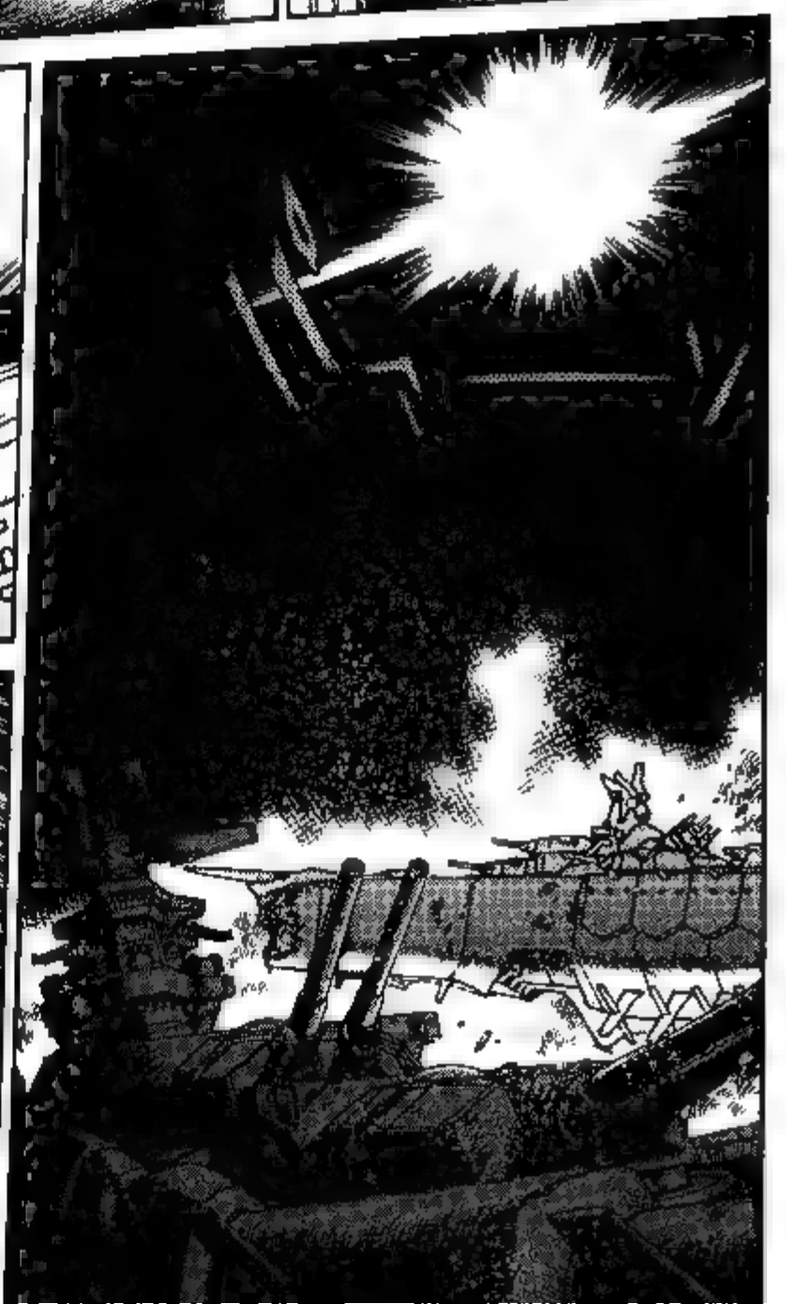
もう少し…
もう少しだ…！
軍師様
いったい何を
お待ちに
なられているの
ですか？
星の
動きだ…
星？
つまり五つの
惑星のこと
ですか？
俺がこの地を決戦場に
選んだのは
その星々が起こす
特殊な気象条件に
目をつけたからだ
この六紋海では
常にある時刻に
違すると
天候がよくても
雨が降るのだ
雨!?
その理由が
わかった時
俺は小踊りして
喜んだね
これで
南天軍に
勝てるとな！


雷よ…
今少し
耐えてくれ…

なかなか
しぶといじゃ
ねえか……！
ええっ!!
けっ!!
憎まれ口も
これまでだ!!
ふん！
それだけ
おまえの腕が
落ちたってことだ！
くたばれ!!
よし
今だ!!

後退の合図を!!
はっ!!
ドド

!!



!!

何処他所見てやがる!!
緑の狼煙……
後退の合図か…!
おっと…!!
とと……
うわっ!
羅侯!
この勝負預けたぞ!!
こ……
このおっ!!
待ちやがれ!!

道がさんぞ"
やれっ"

ちっ！
総大将の一騎討ちほど雌雄を決するのに相応しいとは思わねえか!!
てめえの軍師が何を考えてようがな！
しまった！金剛が……敵に取り囲まれている!!
竜王様が危ない!!

玉起殿――っ!!
雲海殿!!
それがしが
囲みを
突き破る!!
おぬし
飛びこんで
竜王様を
救ってくれい!!
わかりました――っ!!
お願いしまーす!!
そりゃあっ!!
突撃だ!!

ようし〃
霊源殿に
続いて
あの破口から
突入だ〃
竜王様
お助けに
参りました〃

孟起!!
ええい 雑兵に邪魔させるな!! やれえ!!
雷!! おまえは俺と勝負をつけるんだ!!

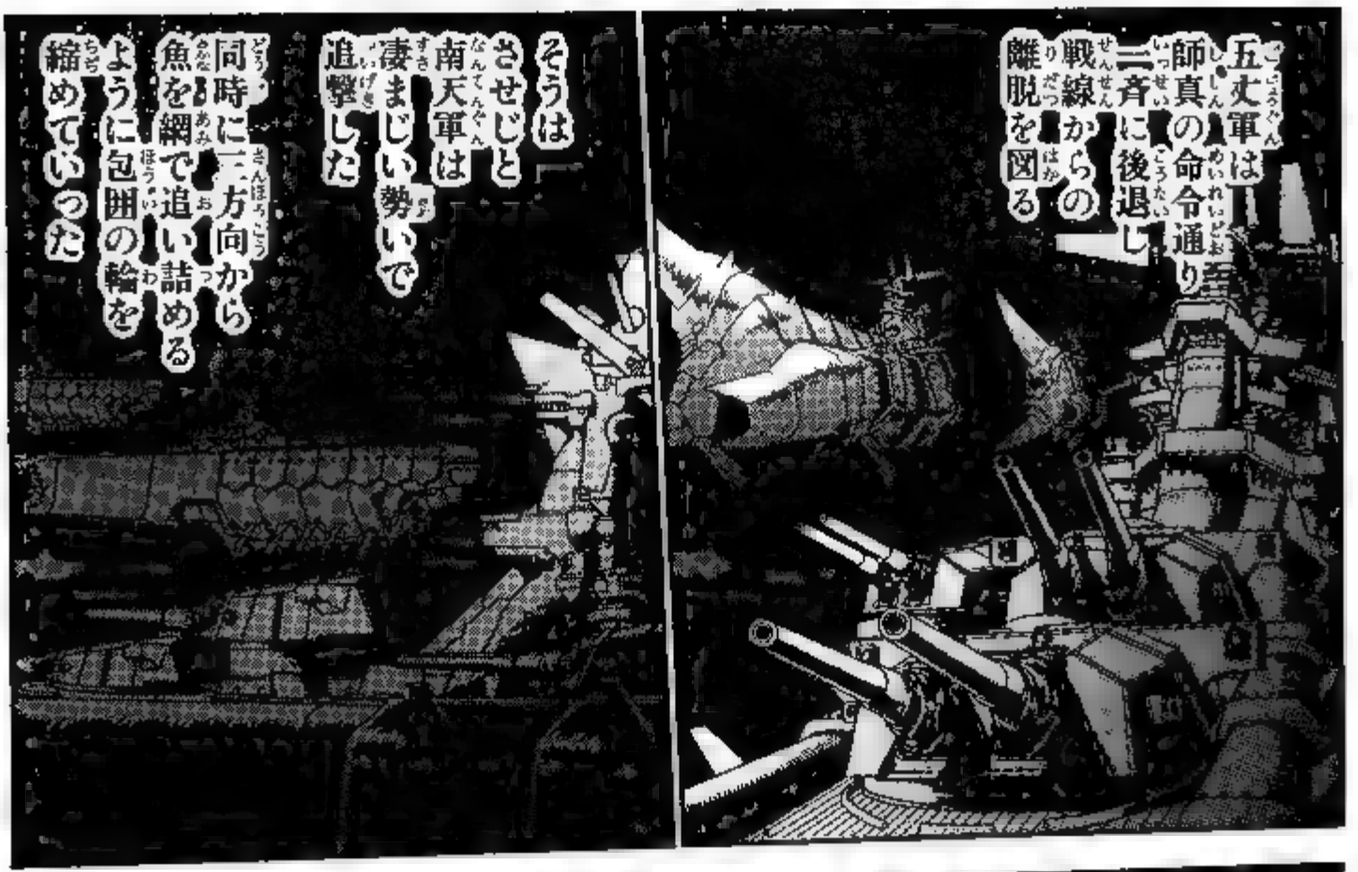
王(おう)様
多勢に
無勢ですぞ!!
なんのっ!!
なんとしてでも
竜王(りゅうおう)様を
お逃がせねば!!
そうだ……!!
合馬の……
合馬の
御屋敷に
火が回ったぞ!!

何!!
だ……
陣羽織に!?
爆発するぞ
――っ!!
バカヤロ――!!
あんなの
でまかせだ!
ひるむな
――っ!!
殿!
お急ぎを!!
こらぁ
離せ!!
まだお館が
ついてねえんだぞ!!
竜王様
ただちに
それがしの館に!!
おうっ
ご苦労だったな
孫起!!
!!

金剛が…
金剛が沈んだ…
無敵の金剛が～～～
元気をだせ
みんな!!
まだ戦いは
終わっちゃいない!!
俺の総大将旗を
この「回天」に
掲げろ!!
これより
この「回天」を
旗艦とする!!
亀
鯨

も…申しわけございません！
囲みを破れない自分の非力さ故に
怖れ多くも旗艦の弾薬庫に火を放ちました!!
竜王様を危険な目にあわせた罪いかなる処分をも覚悟しております!!
おいおい孟起……
金剛こんごう さらば……
そんなこと気にするな
それより羅侯がカンカンに頭に来てる急いでずらかれ！
はは——っ!!
ご寛大なお言葉…感謝いたします！

くそ――っ!!
イテッ
追え
逃がすな!!
なんとしてでも
竜我に
追いつけ!!
婁子昌様!
五丈軍が
全戦線で後退を
始めました!
よし!
全軍に追撃
命令を!!
はっ!!
包囲網を
縮めよ!!


五丈軍は
師真の命令通り
一斉に後退し
戦線からの
離脱を図る
そうは
させじと
南天軍は
凄まじい勢いで
追撃した
同時に二方向から
魚を網で追い詰める
ように包囲の輪を
縮めていった

そして
その網の
口を塞ぐかの
ように
ゴゴゴゴ
六隻の
巨大戦艦が
現れたのだ!!

ああっ!!
しまった…!!
囲まれたか…!?
いよいよ
総仕上げだ!
師真!
おまえにも
手の施しようがない
決定的な瞬間が
訪れたのだ!

カリ
カリ
!!

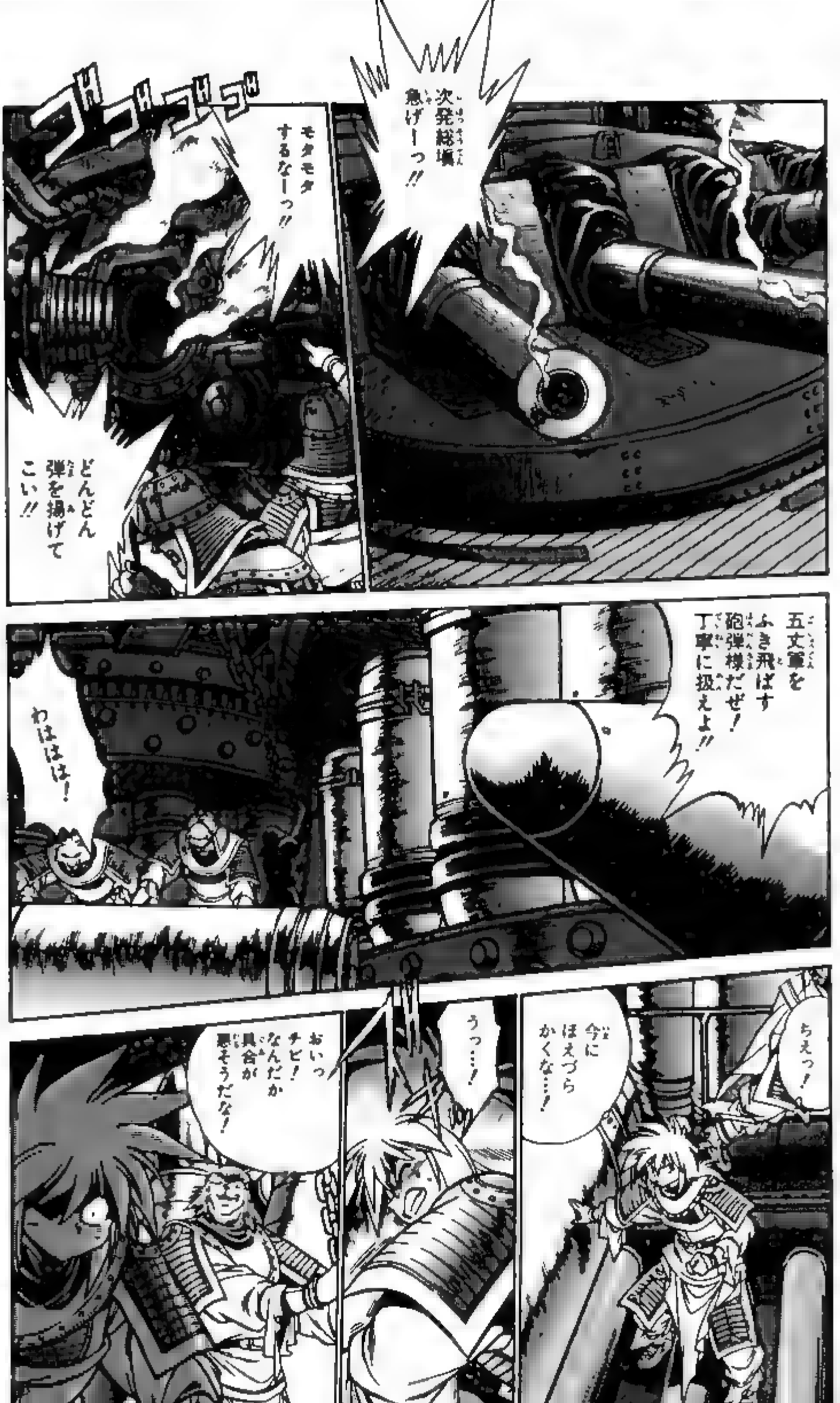
おいっ
何をしてる
さっさと
配置に
走れ――っ"
もたもた
するな"
"
戦いが
始まってる…!
こんな所で
グズグズ
してられない…!
雷の兄貴が
危ない……!

うわ――っ!!
なんとしてでも包囲網を突き破れ――っ!!
血路を開くんだ!!

軍師様！
味方が包囲されました!!
集中砲火を浴びています!!
こ…これで
これで作戦は
よかったの
でしょうか!!
後は
各々兵士達の
敢闘能力に
賭けるしかない
頼む
雷……
突破してくれ…！
認めたくはないが
法や理論を
超越した
おまえの"力"に
賭けているんだぞ……!!

ふふふ……
包囲は完璧だ……
後世の歴史家はこう書くだろう
戦いではなく"虐殺"だとな！

わはははうてうて撃ちまくれーっ!!
ここが五丈軍の墓場じゃ!!


ゴゴゴゴゴ
次発総掛
急げーっ!!
モタモタ
するなーっ!!
どんどん
弾を揚げて
こい!!
五丈筒を
ふき飛ばす
砲弾様だぜ!
丁寧に扱えよ!!
わはは!
ちえっ!
今に
ほえづら
かくな…!
うっ…!
おいっ
チビ!
なんだか
具合が
悪そうだな!

うっ……!!
そりゃおめえ……
血…!?
うおおおお
火事だ!
火事だ!
火事だーっ
な…
なにいっ!!
どこだ!!
なんだとおっ!!
バカヤロー!!
すぐ消せえっ!!
火事だーっ!!
うわあっ
こっちもだ!!
あそこもだぞ!!
消火ホース持ってこいーっ!!
火事だ!

もうだめだーっ!!
みんな逃げろーっ!!
ひ…ひいっ!!
おいっマジかよ!!
し…しまった…!!
やろうっ五文の間者かーっ!!
くそう開けろ!!
てめぇこのチビ!!

くそう
開かねえ！
ぶち破れ!!
火徳星様に
お報せ
するんだ!!
火徳星様
第三砲塔より
緊急報告です！
むう！
今
五丈量のやつらを
粉砕する
一番の見どころ
だぞ!!
邪魔するなと
言っておけ!!
へへっ
おまえら
ぶっ飛ばすのに
おあつらえ向きな
図体だな
安心しな
その威力
存分に発揮
させてやるぜ

う…
ちいっ
目がかすんできた
ブルブル

このガキゃあ!!
バラバラに
切り刻んじまえ!!
ふざけた
真似しやがって!!
ム……
バ――カ!

このガキ…
じょ…
兄貴はよき右ぇか…!!
おいっ
バカ やめろ!
そんなこと
したら
てめえも
ふっ飛んじまうん
だぞ!!
雷の兄貴は
おいらには
よくわかんないけど
すっごくてかいこと
しようと
してるんだ……!
その兄貴の
夢のための……
これが
おいらの
覚悟だ!!

なにいっ!?
追いつめられた雷!
巨大戦艦を先頭に
南天の鋼鉄軍団は
今、まさに五丈軍を
押し潰そうとしていた。
敵将、姜子昌の口元に
必勝の笑みが浮かぶ!!
だがその時、
希代の軍師
師真の起死回生の
秘策が炸裂した!!

六紋海の戦いで
生き残るのは
雷と羅候どちらか!?
銀河は統一されるのか!?
平和はやってくるのか!?

歴史の転換点となった
この戦いの結末…!!

「銀河戦国群雄伝ライ」
十八巻で読め!!

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ ⑰

1998年4月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5214(編集)

発売元　株式会社主婦の友社　〒101-8911 東京都千代田区神田駿河台2-9 電話03-5280-7550(営業)

装丁　朝倉哲也＋design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1998

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！'97年7月号～11月号(メディアワークス刊)

ISBN4-07-308620-0 C0979